

第2章 調査結果

第2章 調査結果

1 食品ロスについて

食品ロスについて、以下の質問にお答えください。

(1) 食品ロスの認知度

問1 あなたは食品ロスという言葉を知っていましたか。(○は1つ)

食品ロスの認知度については、「意味を含めて知っている」が89.6%と最も多く、次いで「意味は知らないが聞いたことがある」(6.7%)、「知らない」(2.8%)の順となっている。

一方、年齢別にみると、「意味を含めて知っている」の割合は50歳代で94.0%、60歳代で92.3%と、50歳代から60歳代の年齢層で高くなっている。

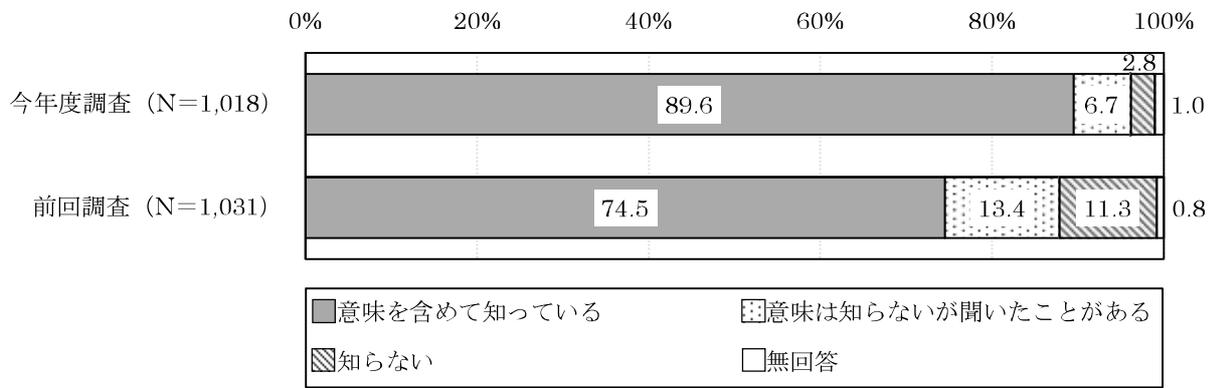


図1-1 食品ロスの認知度

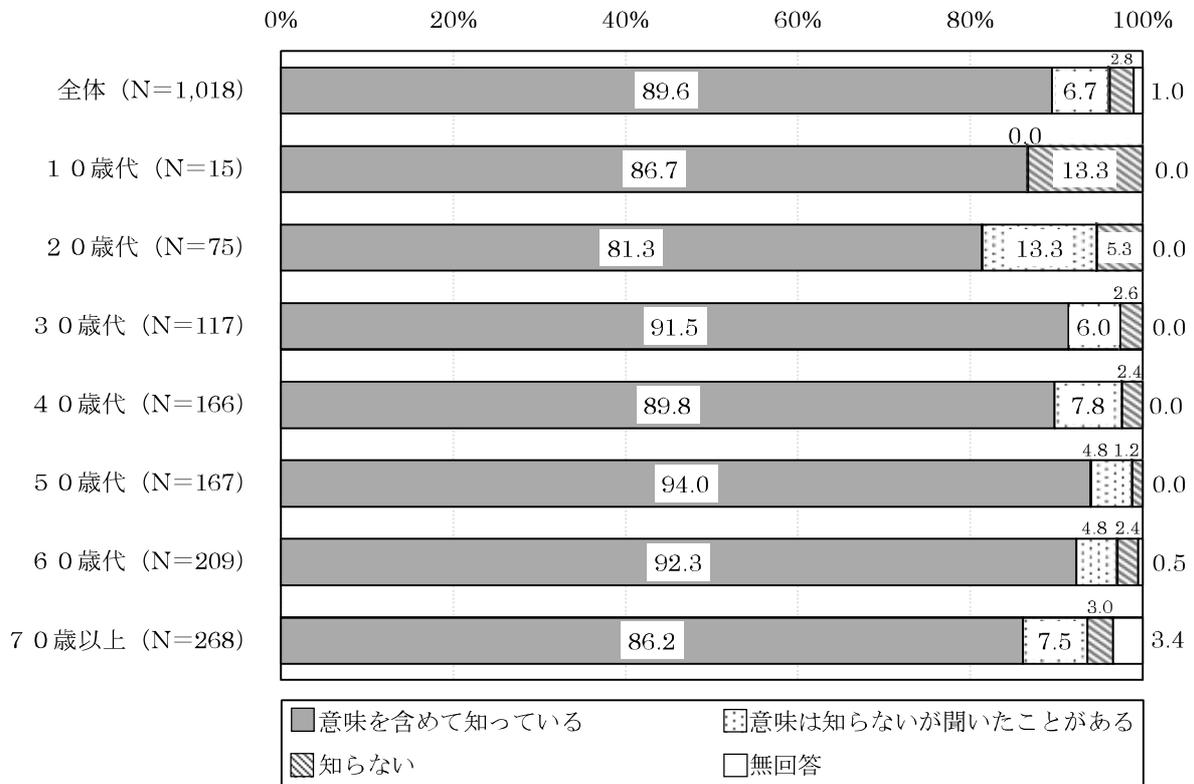


図1-2 年齢別 食品ロスの認知度

(2) 食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度

問2 あなたの世帯では、食べ残しや手つかず食品（未開封品）を捨ててしまうことはありますか。（〇は1つ）

食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度については、「ほとんどない（週1回以下）」が71.9%と最も多く、以下「たまにある（週2日程度）」（24.5%）、「よくある（週4日以上）」（2.5%）の順になっている。

これを、年齢別にみると回答者数の少ない10歳代を除きすべての年代で「ほとんどない（週1回以下）」の割合が最も高く、次に多いのは「たまにある（週2日程度）」となっており、年齢による大きな差はみられない。

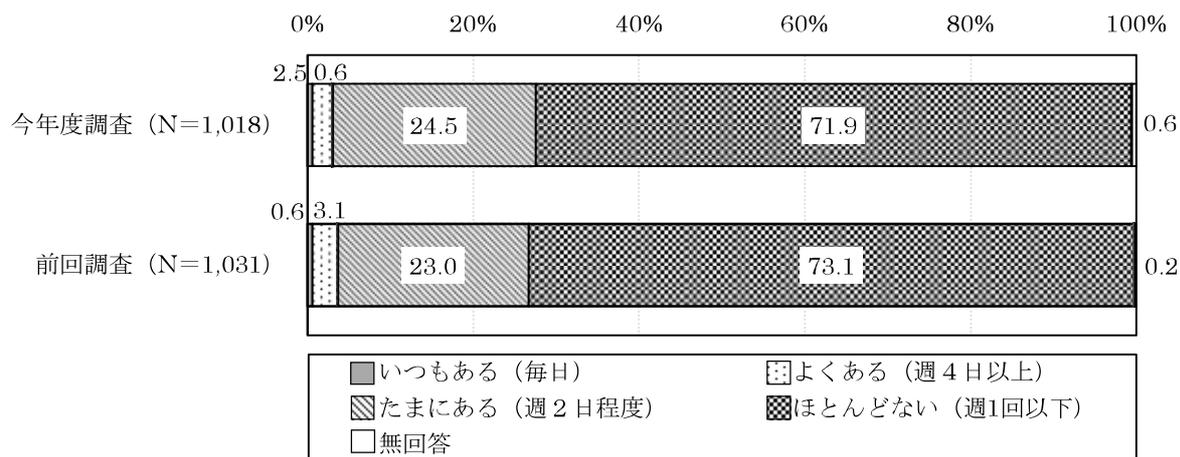


図1-3 食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度

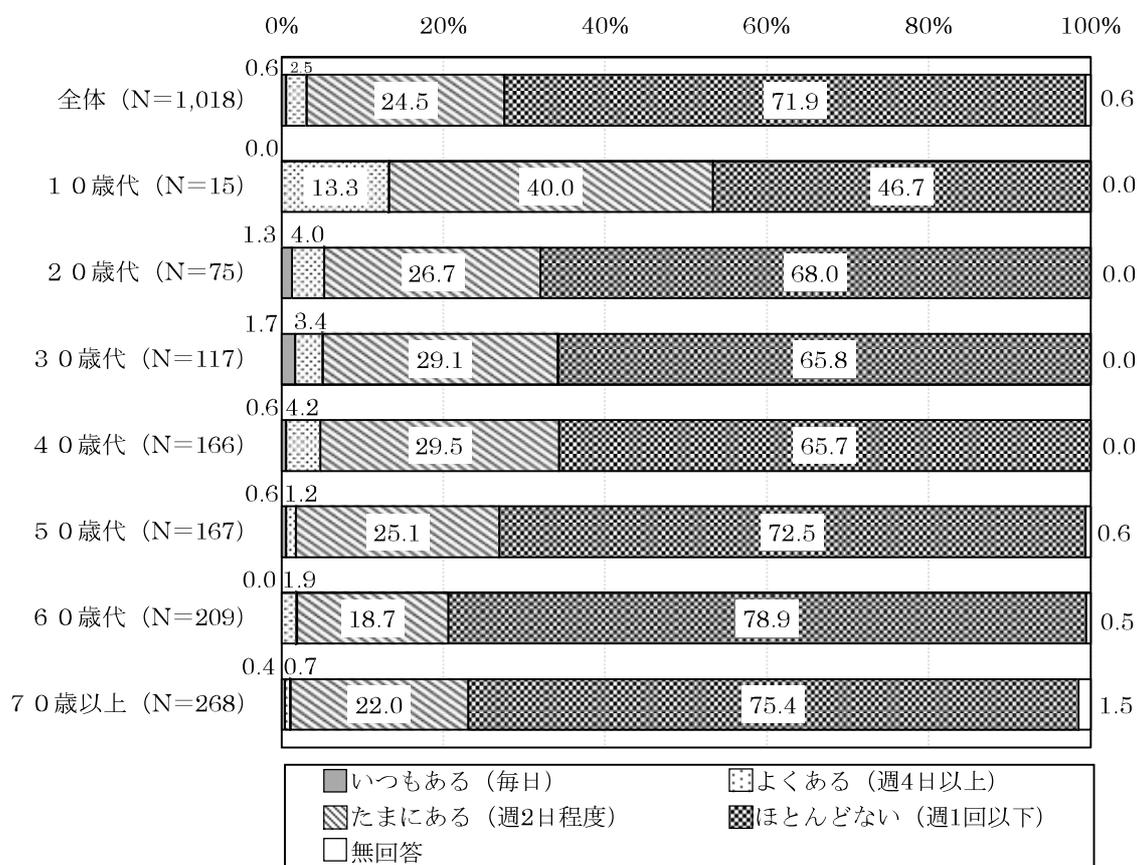


図1-4 年齢別 食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度

(3) 食べ残しの廃棄種類

問3 あなたの世帯でよく捨ててしまう食べ残しは何ですか。(上位3つまでお選びください)

食べ残しの廃棄種類については、「捨ててしまう食べ残しは無い」が40.2%と最も多く、以下、「汁物」(15.4%)、「煮物」(15.1%)、「サラダ・和え物」(12.9%)の順となっている。

また、「その他」の内容としては、「賞味期限切れの乳製品」、「賞味期限切れの缶詰」「レトルト食品」などがあがっている。

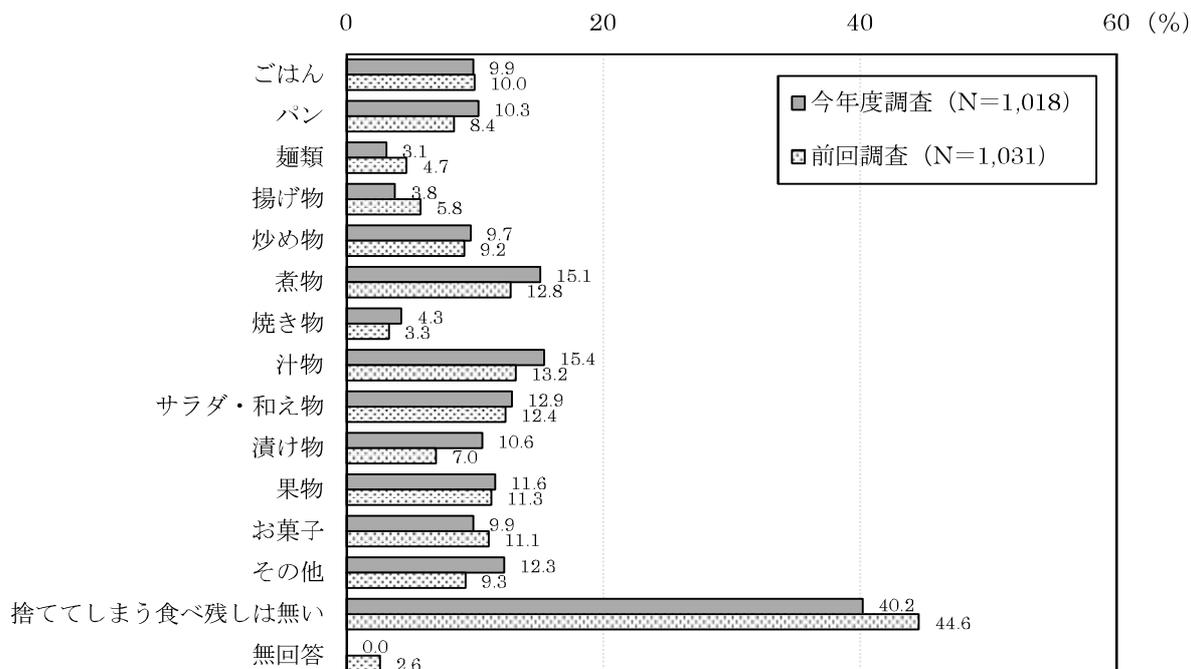


図1-5 食べ残しの廃棄種類

(4) 手つかず食品（未開封品）の廃棄種類

問4 あなたの世帯がよく捨ててしまう手つかず食品（未開封品）は何ですか。
（上位3つまでお選びください）

手つかず食品（未開封品）の廃棄種類については、「捨ててしまう手つかず食品は無い」が46.3%と最も多く、以下、「野菜類」（25.0%）、「調味料」（15.4%）の順となっている。
また、「その他」の内容としては「缶詰」、「瓶詰食品」、「頂き物」などがあがっている。

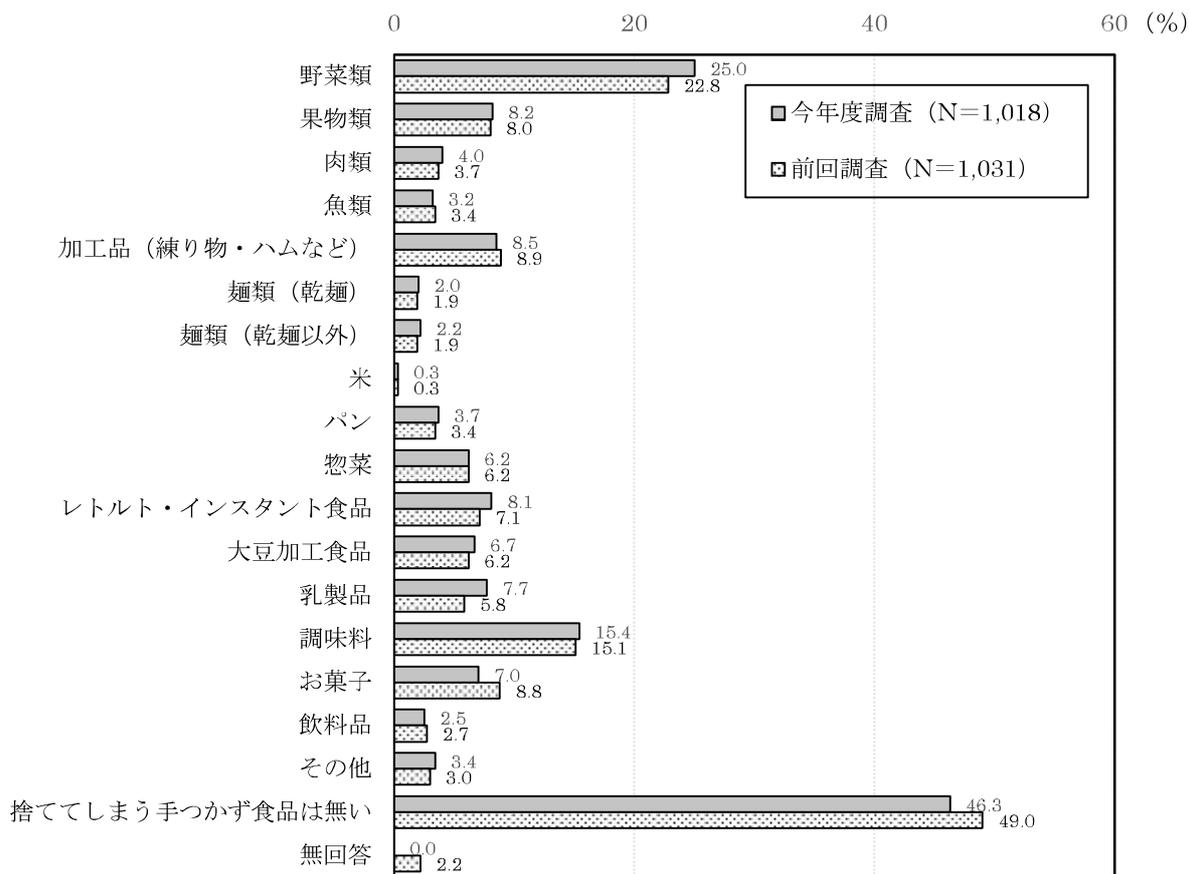


図1-6 手つかず食品（未開封品）の廃棄種類

(5) 食品廃棄の理由

問5 あなたの世帯で食品を捨ててしまう主な理由は何ですか。(上位2つまでお選びください)

食品を捨ててしまう主な理由は、「保存していた食材の使い忘れ」が41.7%と最も多く、次いで「保存していた料理の食べ忘れ」(27.9%)、「食品を捨てることはない」(24.8%)の順となっている。

また、「食品の買い過ぎ」(7.9%)と「料理の作り過ぎ」(10.1%)の予測できることや「食事の急な予定変更」(8.5%)、「頂き物のもらい過ぎ」(8.1%)の予測できないことも少数ではあるが、一定数の世帯がいると見受けられる。

なお、「その他」の内容としては「使用頻度は低い常備しておきたい調味料の賞味期限切れ」、「買った物が傷んでいた」などがあがっている。

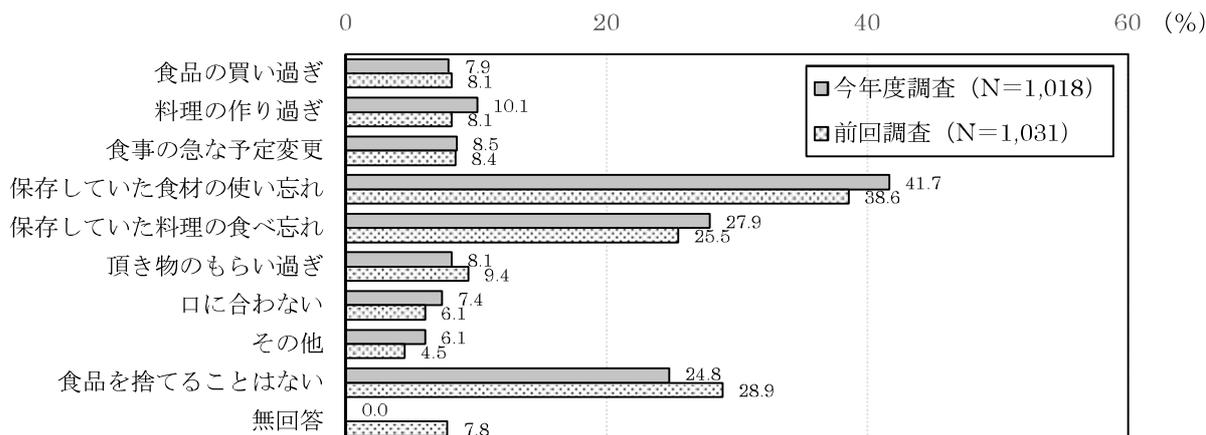


図1-7 食品廃棄の理由

(6) 食品購入時の注意点

問6 あなたの世帯で食品を購入する時に気をつけていることは何ですか。
(○は該当するものすべて)

食品を購入する時の注意点については、「商品や食べる時期によって賞味期限・消費期限を考慮して選ぶ」が53.1%と最も多く、次いで「事前に買い物メモをつくる」(57.4%)と「買い物前に冷蔵庫の中身を確認する」(54.6%)となっており、いずれも全体の半数を超えている。

また、「衝動買いをしない」(23.9%)、「小分け・バラ売りのものを選ぶ」(19.5%)も一定数の世帯が見受けられる。

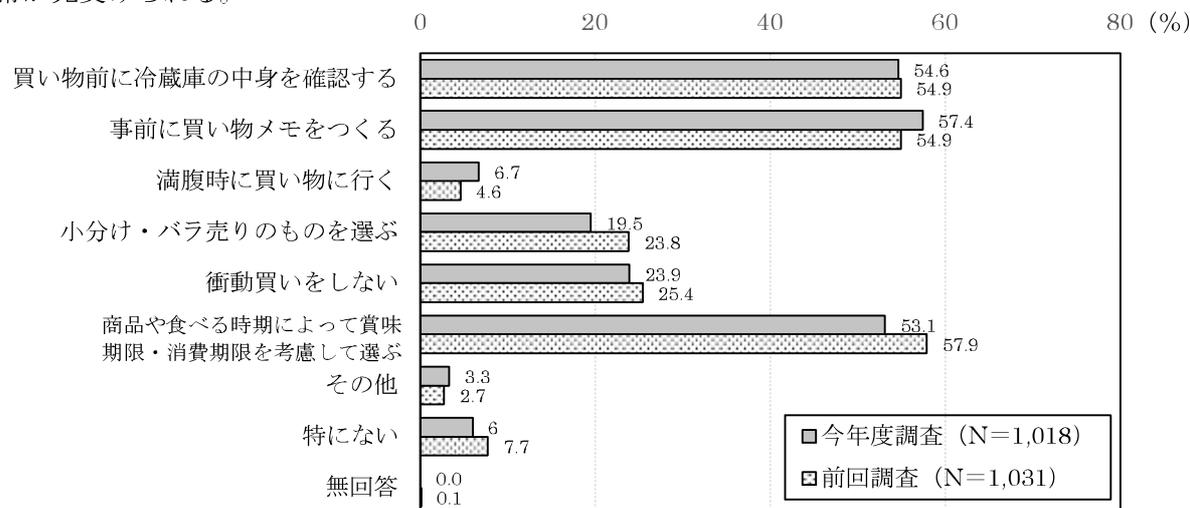


図1-8 食品購入時の注意点

(7) 食品保存の実践方法

問7 あなたの世帯で冷蔵庫に食品を保存するときに実践していることは何ですか。
(○は該当するものすべて)

食品保存の実践方法については、「定期的に冷蔵庫の中身を確認する」が51.8%と最も多く、次いで「食材ごとに定位置を決める」(38.6%)、「小分けにして保存する」(33.9%)となっている。
また、「その他」の内容としては、「期限を覚えておく」「冷凍保存する」などがあがっている。

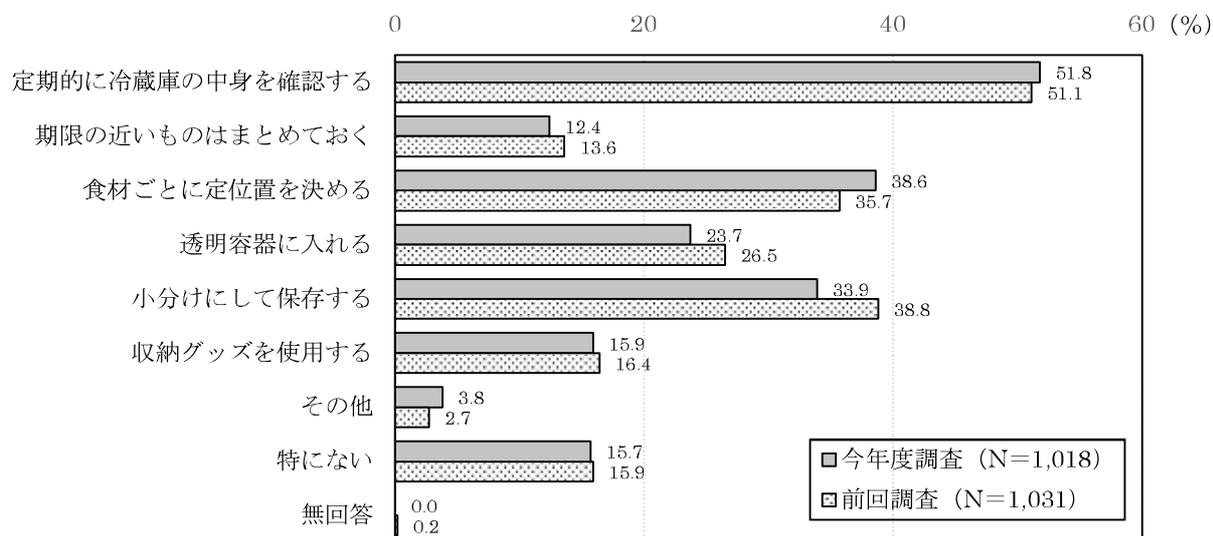


図1-9 食品保存の実践方法

(8) 食品ロスを減らす余地

問8 あなたは、あなたの世帯の食品ロスを減らす余地があると思いますか。
(○は1つ)

食品ロスを減らす余地については、「まだ減らせる」が53.0%と最も多く、次いで「食品ロスが出ない」(23.8%)、「わからない」(12.2%)の順となっている。

これを、年齢別にみるとすべての年代で「まだ減らせる」が最も多く、次に多いのは「食品ロスが出ない」となっている。

また、「まだ減らせる」の割合は、年齢層が低くなるにつれて大きくなる傾向がみられ、10歳代から30歳代にかけてはそれぞれ60%を超える数字となっている。

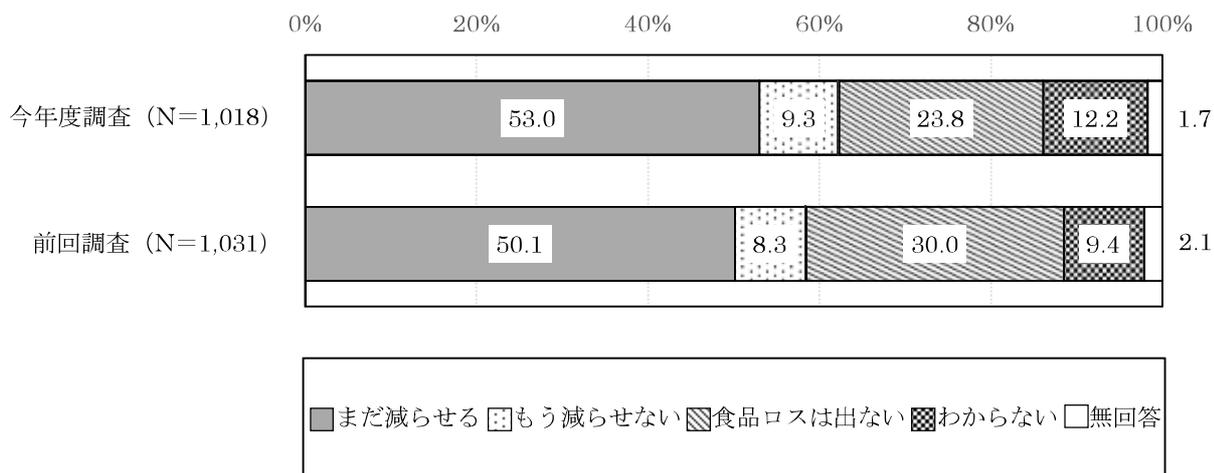


図1-10 食品ロスを減らす余地

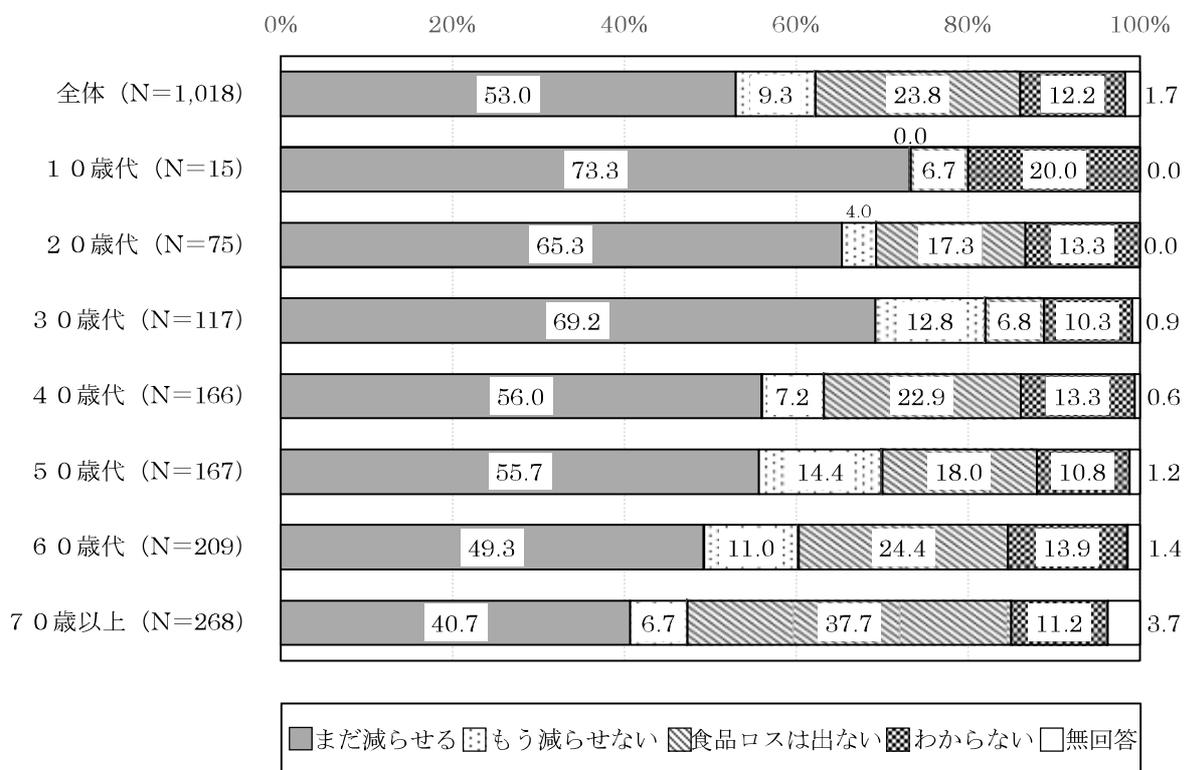


図1-11 年齢別 食品ロスを減らす余地

(9) 食品ロス削減による効果

問9 (あなたの世帯に限らず) あなたは一般家庭からの食品ロスが減ると、どんな効果があると思いますか。(〇は該当するものすべて)

食品ロスが減ると、どのような効果があるかを尋ねたところ、「食費節約」が76.4%と最も多く、次いで「ごみ焼却エネルギーの節約」(66.5%)、「有料ごみ袋の節約」(52.0%)の順となっている。

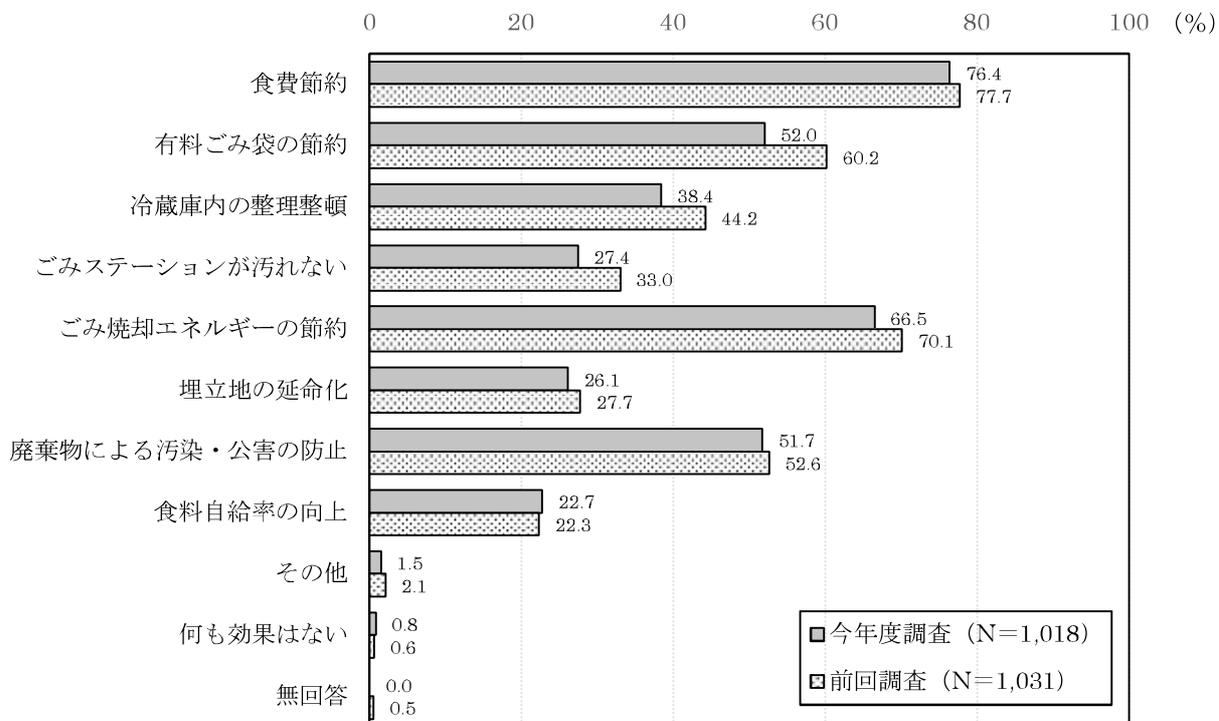


図1-12 食品ロス削減による効果

(10) 食品ロス削減の意識度

問 10 あなたはこの2～3年で、「食品ロス削減」の意識は高まりましたか。(○は1つ)

食品ロス削減の意識度については、「どちらかと言えば高まった」が38.4%と最も多く、「高まった」(22.5%)を合わせた『高まった派』は60.9%と6割を超えている。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない10、20歳代を除く、すべての年代で「高まった」と「どちらかと言えば高まった」を合わせた『高まった派』の割合は、年齢層が高くなるにつれて大きくなる傾向がみられ、70歳以上では64.7%となっている。

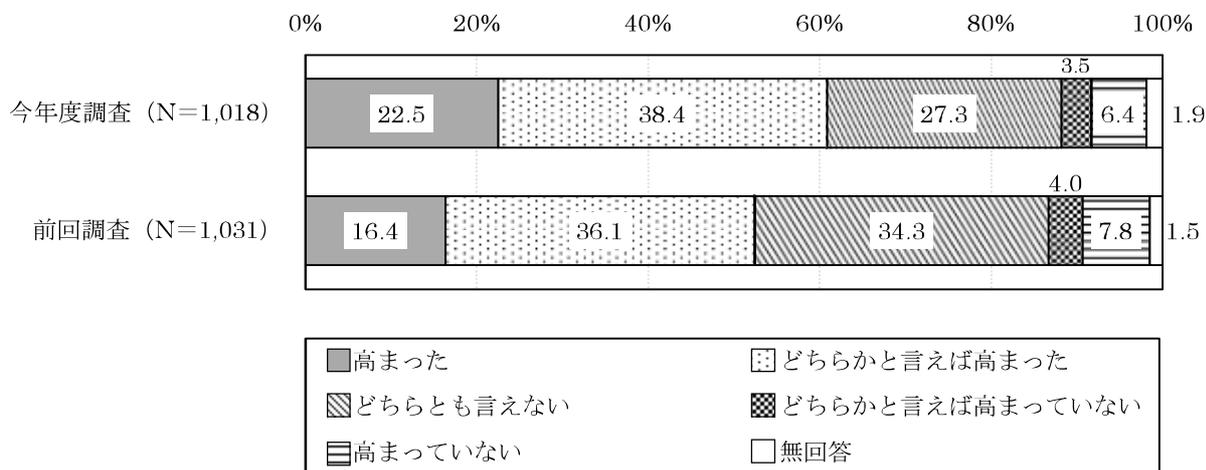


図 1-13 食品ロス削減の意識度

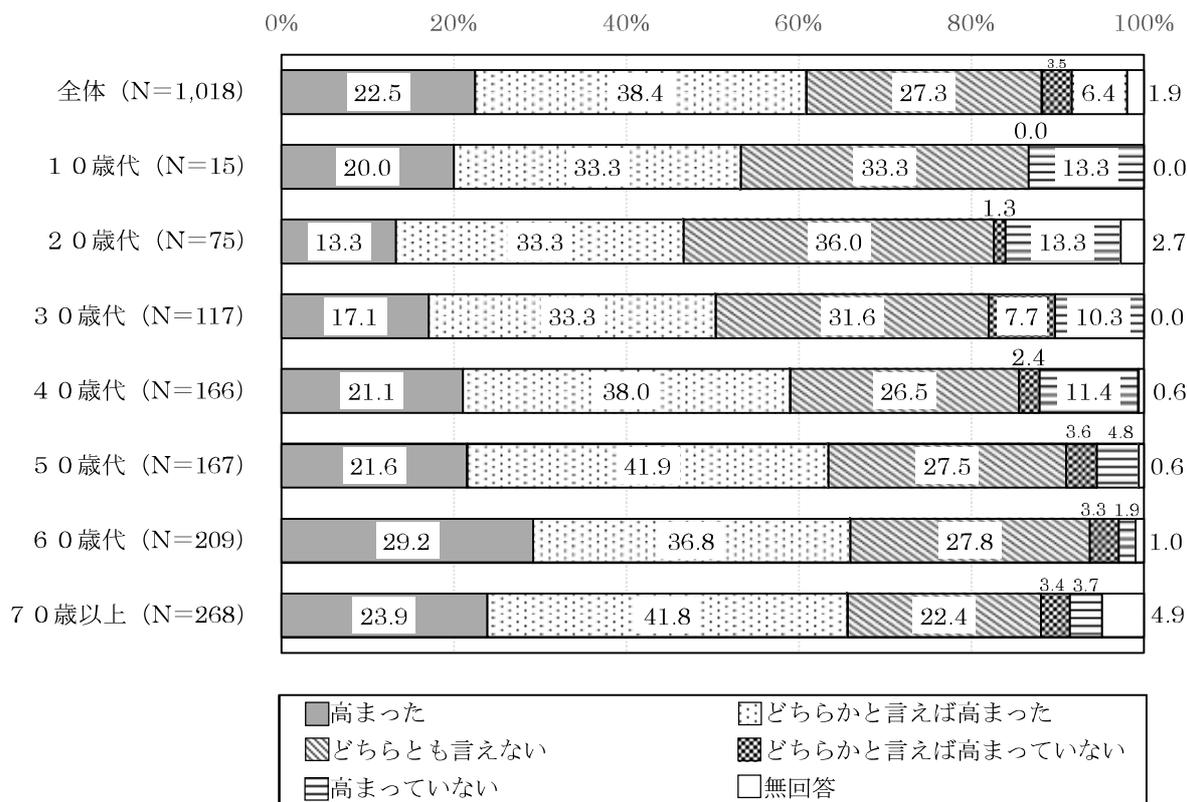


図 1-14 年齢別 食品ロス削減の意識度

また、家族構成別ではすべての世帯で「高まった」と「どちらかと言えば高まった」を合わせた『高まった派』の割合が高く、次いで「どちらとも言えない」となっており、家族構成による大きな差はみられない。

さらに、居住形態別にみると、一戸建て、マンション・アパートとも「高まった」と「どちらかと言えば高まった」を合わせた『高まった派』の割合が高く、次いで「どちらとも言えない」となっており、居住形態による大きな差はみられない。

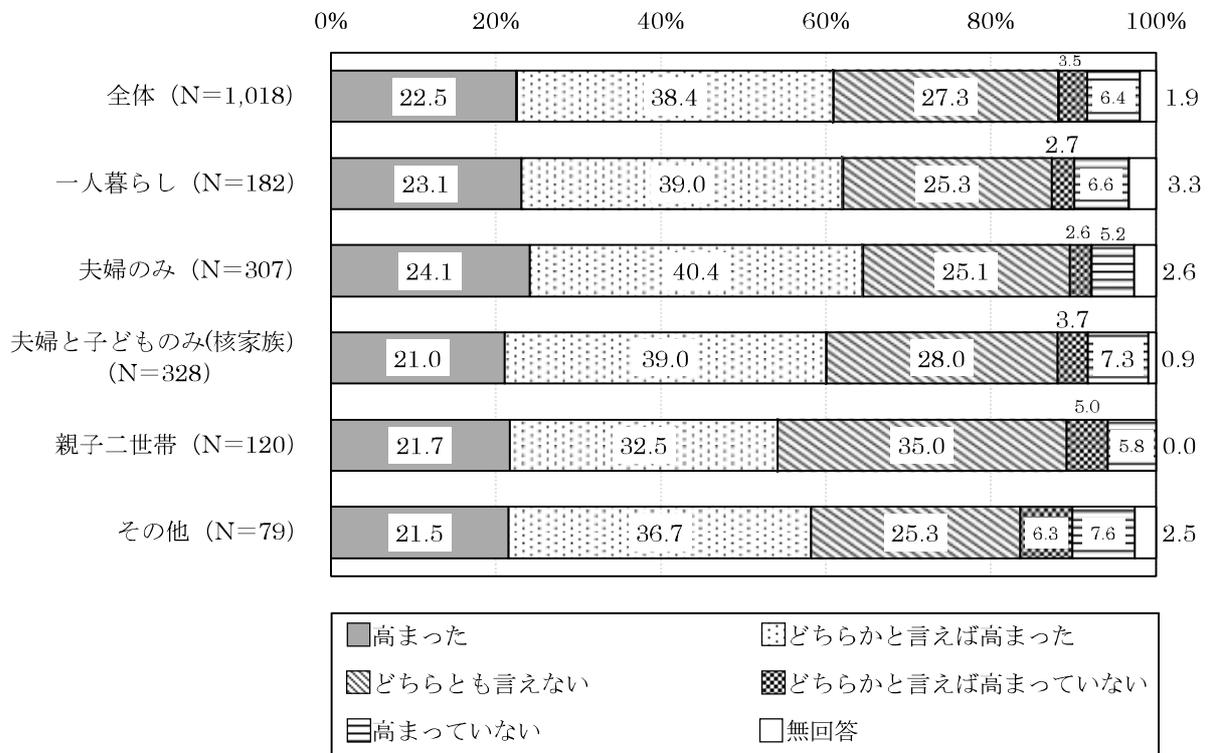


図 1-15 家族構成別 食品ロス削減の意識度

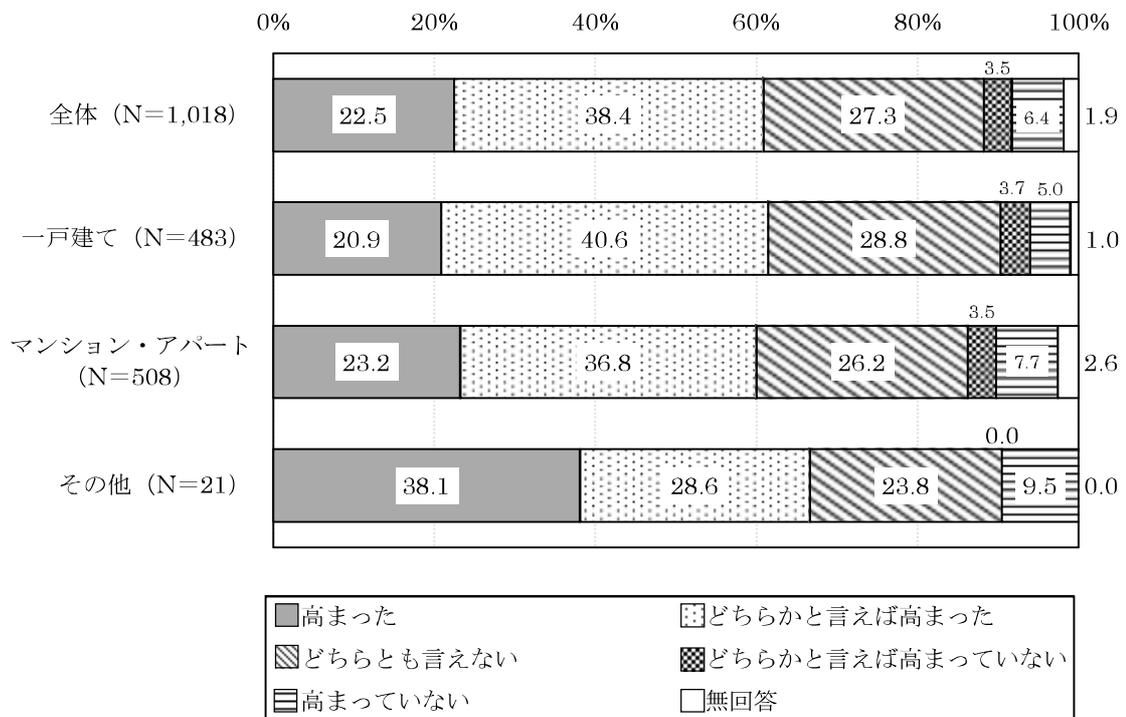


図 1-16 居住形態別 食品ロス削減の意識度

ここで、食品ロス削減の意識度を食品ロスを減らす余地別にみると、『まだ減らせる』と回答した人においては、「どちらかと言えば高まった」の割合が高くなっている。

一方、「どちらとも言えない」は、『まだ減らせる』と回答した人に比べて『わからない』と回答した人の方が多くなっている。

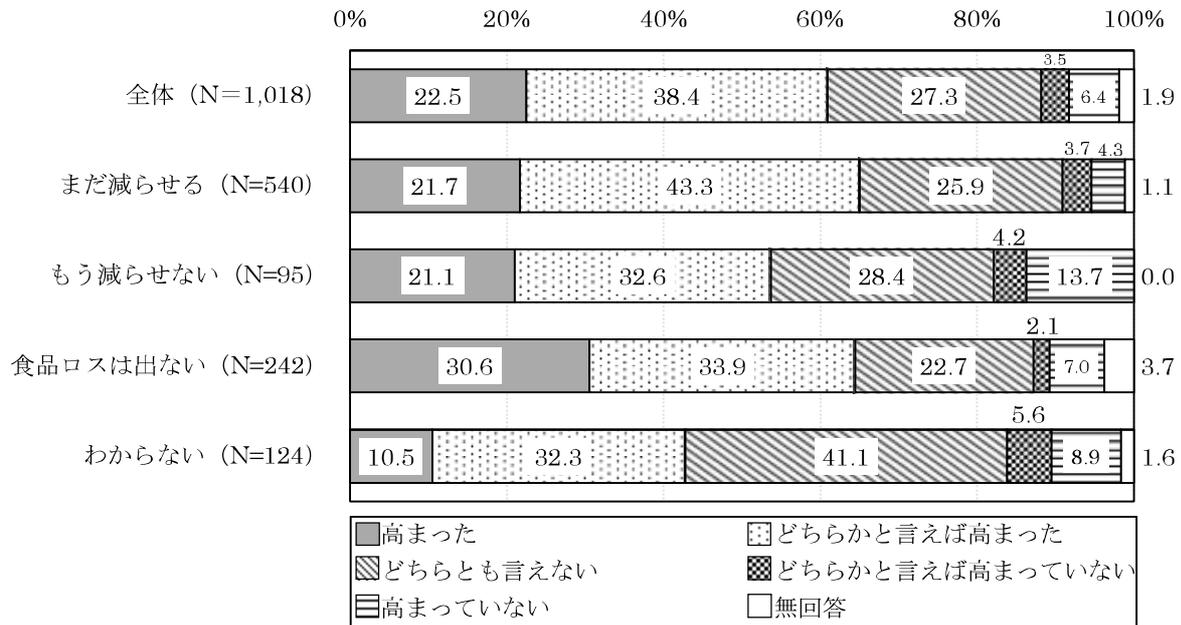


図1-17 食品ロスを減らす余地別 食品ロス削減の意識度

(11) 食品ロス削減の意識が高まったきっかけ

＜問10で「1 高まった」、「2 どちらかと言えば高まった」に○をつけた方に伺います
 ≥
 問11 あなたの「食品ロス削減」の意識が高まったきっかけは何ですか。(○は該当するものすべて)

食品ロス削減の意識が「高まった」「どちらかと言えば高まった」と回答した人に理由を尋ねたところ、「マスコミの報道を見て」が63.4%と最も多く、6割以上いる。

一方、「札幌市の啓発」は15.6%となっており、少数ではあるが一定数の方がいると見受けられる。

また、「その他」の内容としては、「時間に余裕ができた為見直した」「コロナの影響でゴミの量が増えたから」などがあがっている。

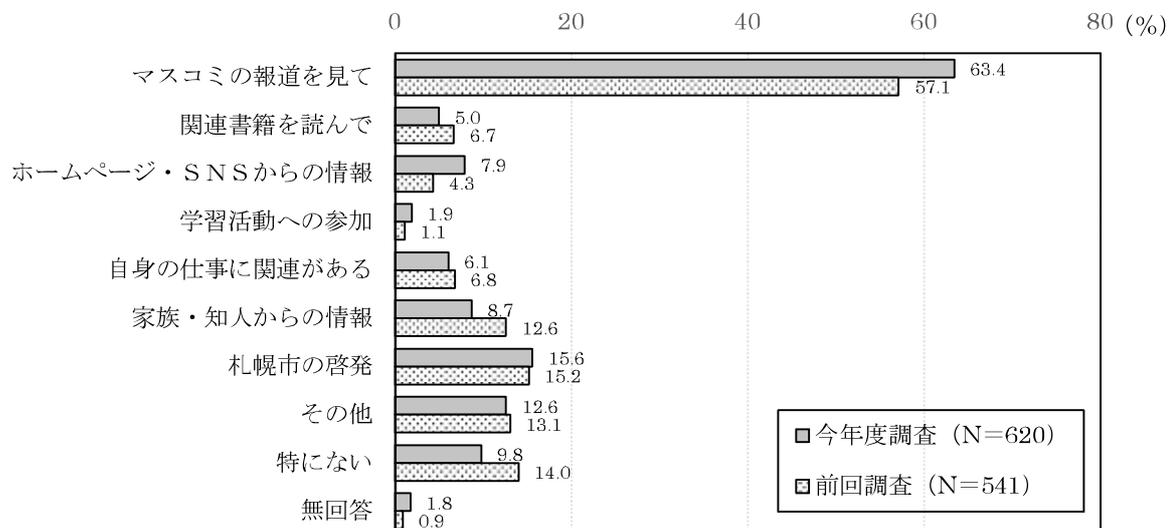


図1-18 食品ロス削減の意識が高まったきっかけ

(12) 「さっぽろコミュニケーション」・「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」の認知情報媒体

問12 あなたは「さっぽろコミュニケーション」または「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」というフレーズを見た、または聞いたことがありますか。(〇は該当するものすべて)

「さっぽろコミュニケーション」または「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」というフレーズを見聞きしたことがあるかを尋ねたところ、「見ていない・覚えていない」が66.9%と最も多く、約7割を占めており、以下「テレビで見た」(8.7%)、「新聞・フリーペーパーで見た」(6.5%)、「地下鉄・バスで広告を見た」(5.4%)の順となっている。

なお、「その他」の内容としては、「ごみ分けガイド」「大学の講義」「子どもが学校で習ってきた」などがあがっている。

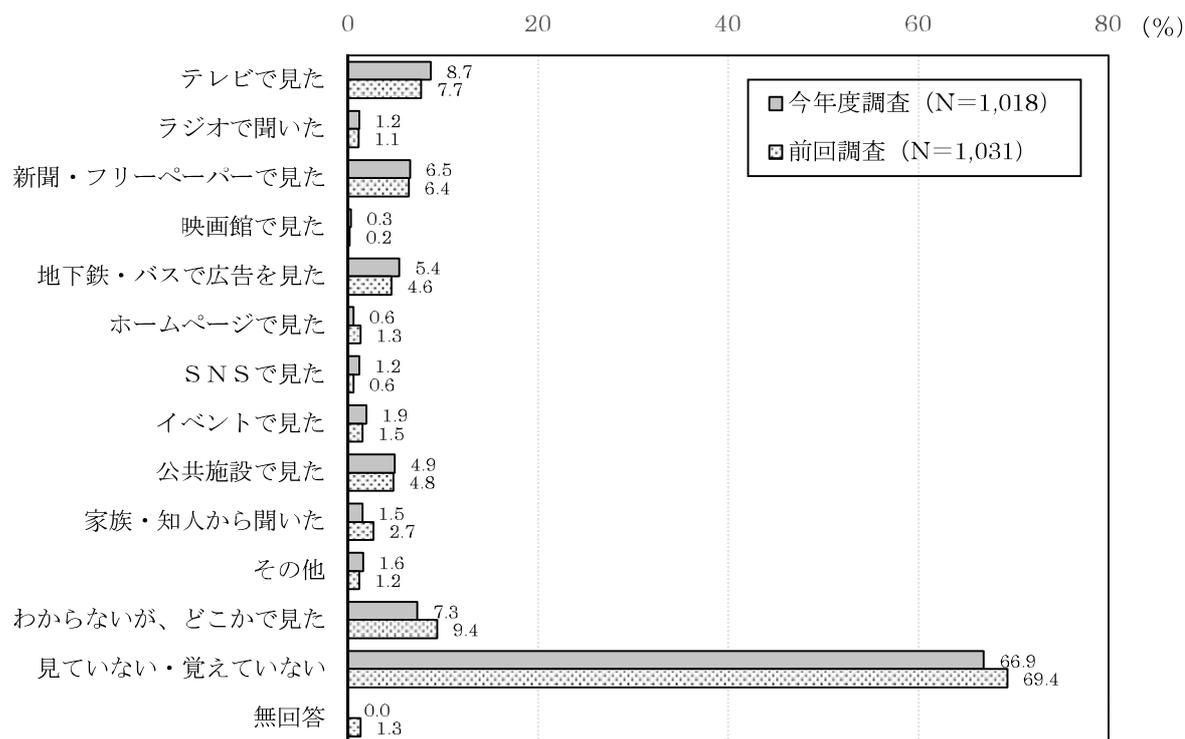


図1-19 「さっぽろコミュニケーション」・「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」の認知情報媒体

(13) 「3010 運動」「2510 スマイル宴」の認知度

問 13 外食時の食品ロス削減のために、宴会や会食の開始後 30 分間と終了前 10 分間は自分の席で料理を楽しむ運動を「3010 (サンマルイチマル) 運動」といいます。札幌市では「さっぽろスマイル」をコンセプトに「2510(ニコット)スマイル宴(うたげ)」として、宴会や会食の開始後 25 分間と終了前 10 分間は自分の席で料理を楽しむことを呼びかけています。あなたは「2510 (ニコット) スマイル宴 (うたげ)」または「3010 (サンマルイチマル) 運動」を知っていましたか。

「3010 運動」「2510 スマイル宴」を知っているかを尋ねたところ、「両方知らなかった」(86.8%)が最も多く、「3010 運動のみ知っていた」(7.9%)、「両方知っていた」(2.1%)の順で多くなっている。

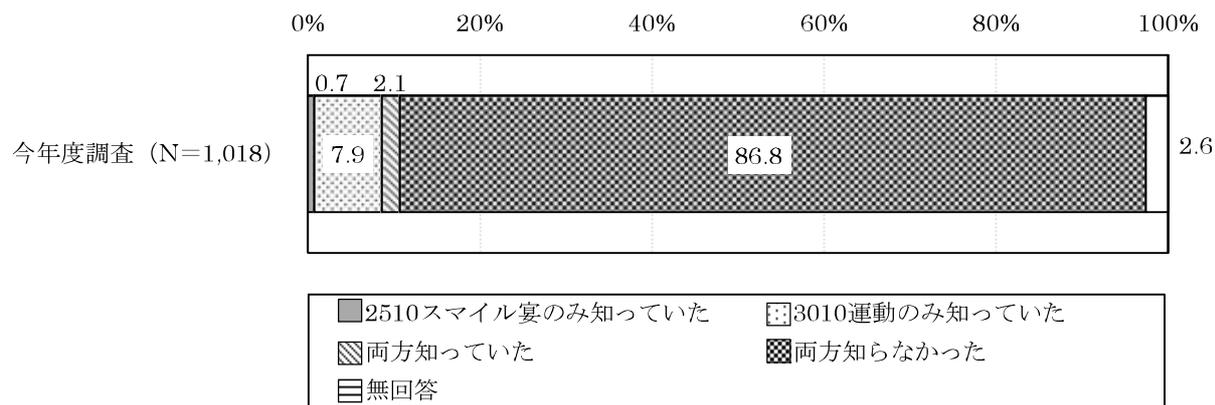


図 1-20 「3010 運動」「2510 スマイル宴」の認知度

(14) 「3010 運動」「2510 スマイル宴」の実践度

問 14 <問 13 で「1 2510 スマイル宴のみ知っていた」「2 3010 運動のみ知っていた」「3 両方知っていた」に○をつけた方に伺います>
あなたは「2510 スマイル宴」または「3010 運動」を実践したことがありますか

「3010 運動」「2510 スマイル宴」を実践したことがあるかを尋ねたところ、「実践したことがない」(58.3%)が最も多く、半数以上を占めている。

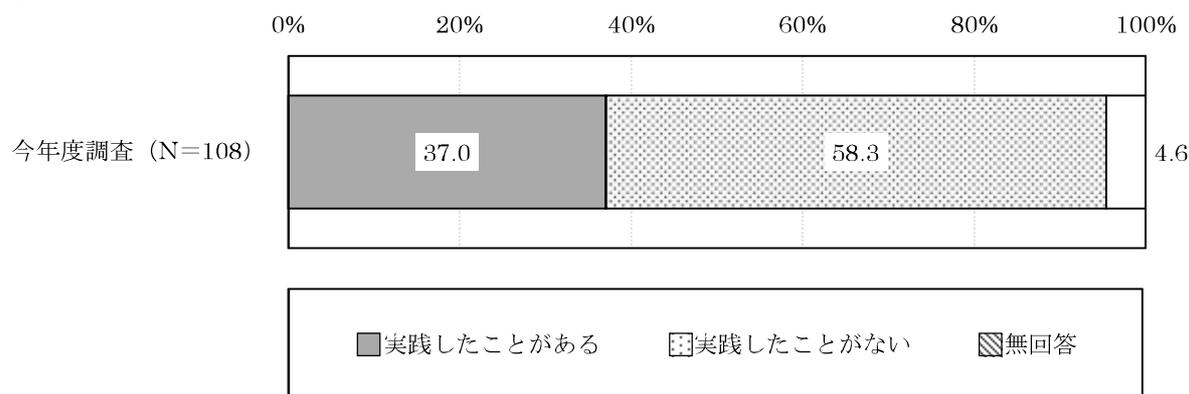


図 1-21 「3010 運動」「2510 スマイル宴」の実践度

2 生ごみの水切りについて

家庭から出る生ごみは、約75%が水分であると言われていることから、札幌市では、家庭における生ごみ減量の方法の一つとして、水切りをご紹介します。
 生ごみの水切りについて、以下の質問にお答えください。

(1) 水切りへの関心度

問15 あなたは生ごみ減量の取り組みとして、水切りは有効だと思いますか。(○は1つ)

水切りへの関心度については、「有効である」が65.6%と最も多く、「ある程度有効である」(27.0%)を合わせた『有効派』は92.6%と、前回調査(91.1%)同様9割を超えている。
 一方、年齢別にみると、「有効である」の割合は60歳代で71.8%、70歳以上で73.1%と、60歳以上の高齢層で高くなっている。

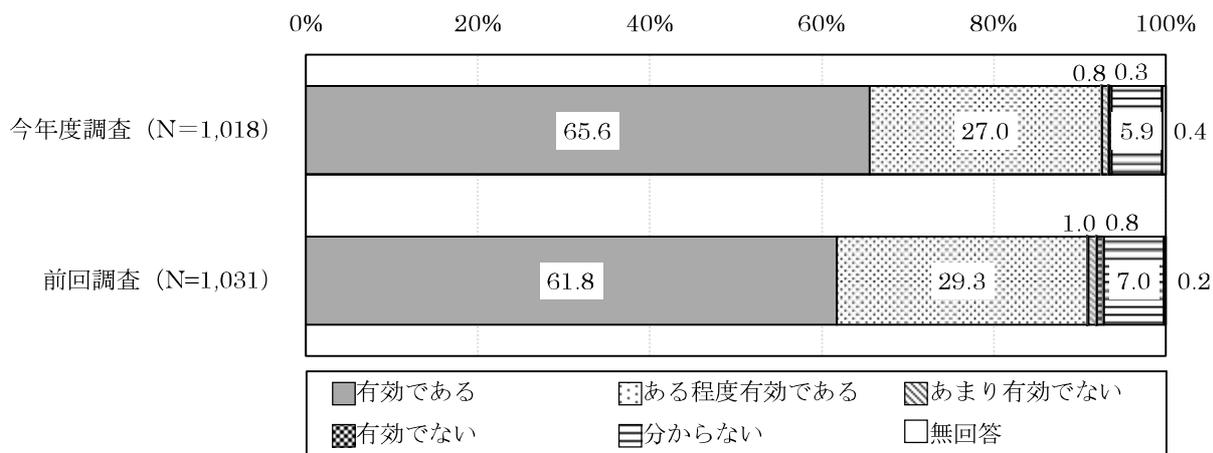


図2-1 水切りへの関心度

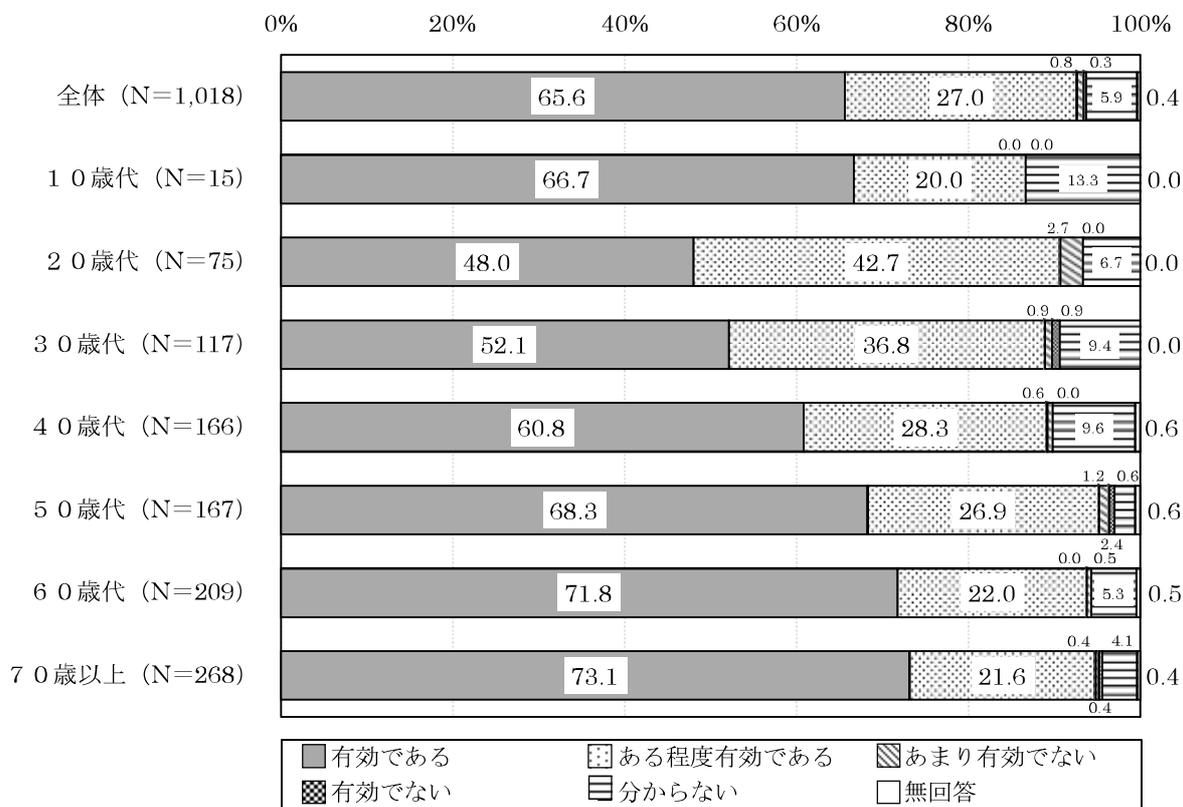


図2-2 年齢別 水切りへの関心度

(2) 水切り取り組み状況

問 16 あなたの世帯では生ごみの水切りに取り組んでいますか。(○は1つ)

水切り取り組み状況は、「現在取り組んでいる」が77.5%と最も多く、次いで「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」(12.0%)となっている。

前回調査で最も多かったのは今年度調査と同様に「現在取り組んでいる」(71.6%)であり、前回調査より5.9ポイント増加し、逆に「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」は前回調査(15.3%)よりも3.3ポイント減少している。

これを年齢別にみると、すべての年代で「現在取り組んでいる」の割合が最も高く、次に多いのは「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」となっており、年齢による大きな差はみられない。

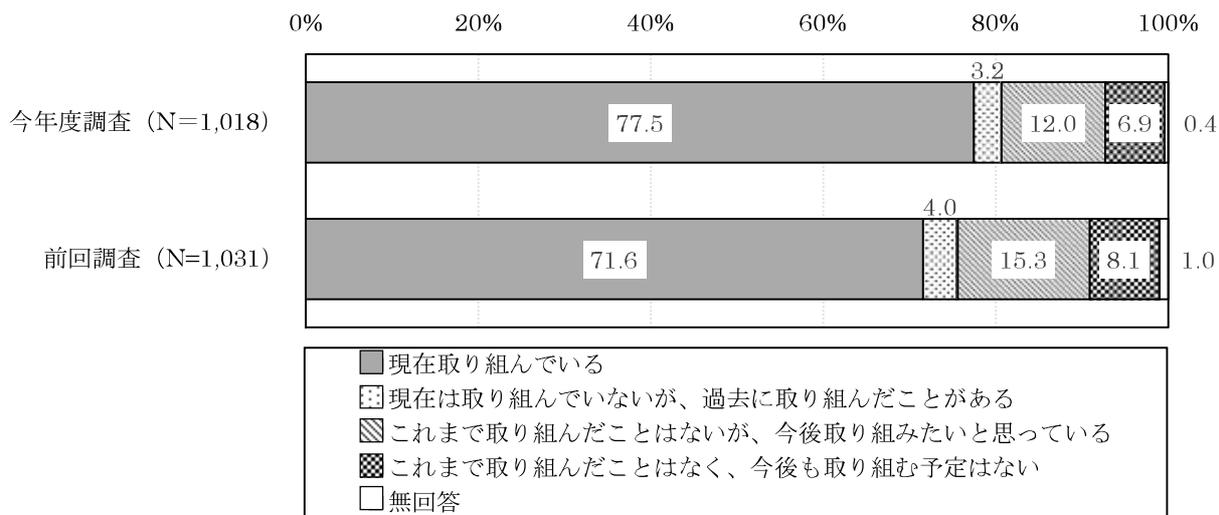


図 2-3 水切り取り組み状況

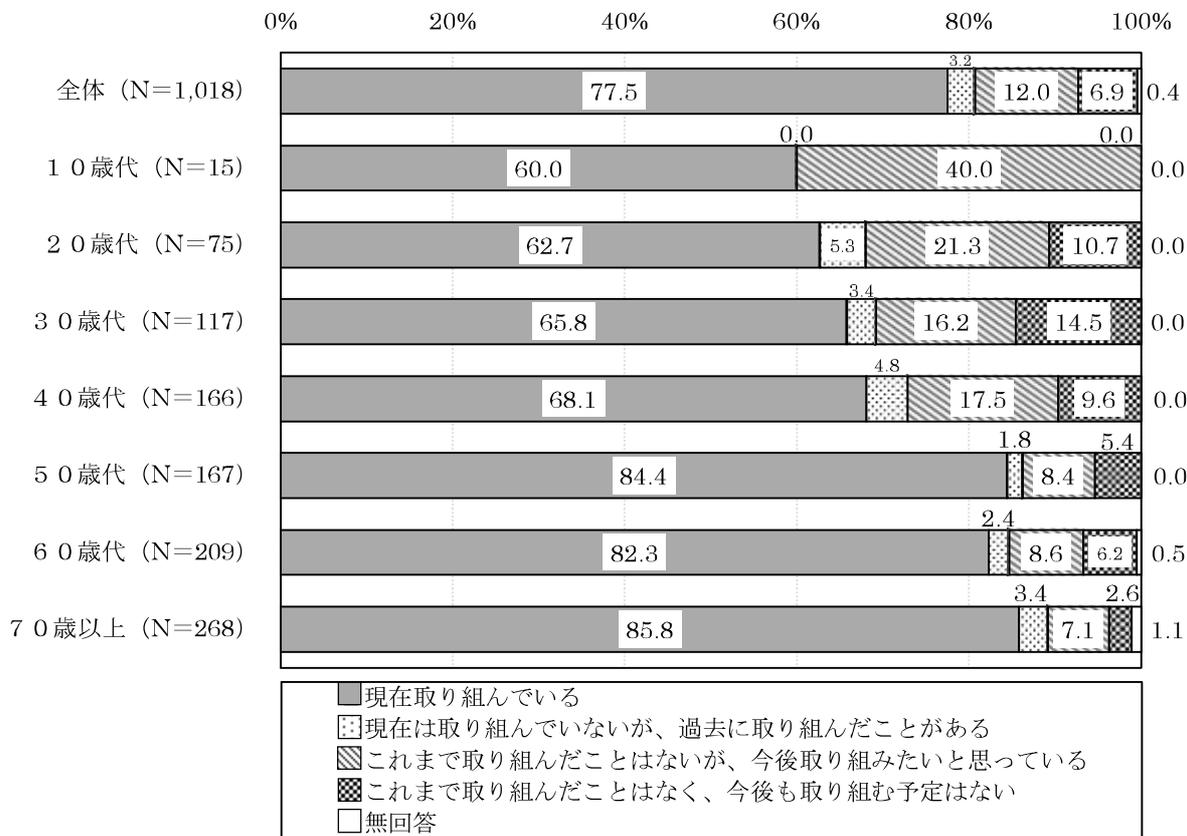


図 2-4 年齢別 水切り取り組み状況

また、家族構成別では、回答者数の少ない『その他』を除くと、すべての世帯で「現在取り組んでいる」の割合が最も高く、次いで「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」となっており、特に家族構成による大きな違いはみられない。

さらに、居住形態別にみると、回答者数の少ない『その他』を除くと、一戸建て、マンション・アパートとも「現在取り組んでいる」の割合が最も高く、次いで「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」となっており、居住形態による大きな差はみられない。

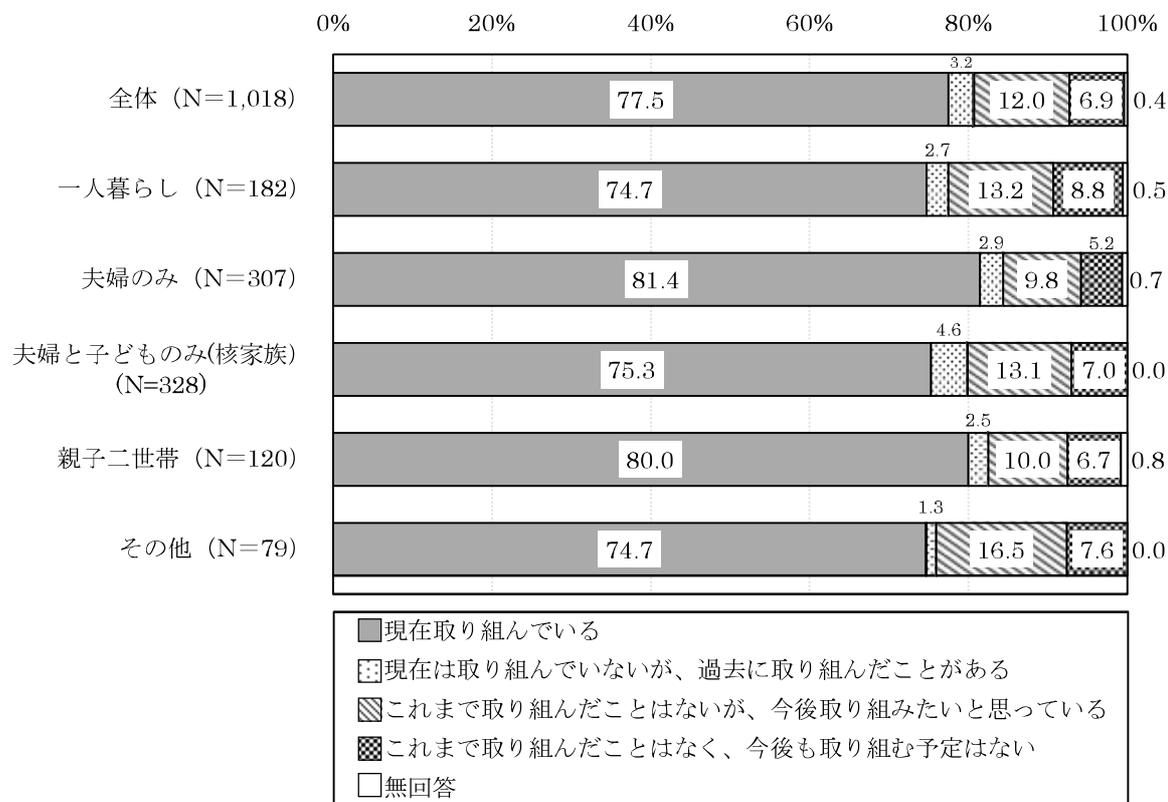


図 2-5 家族構成別 水切り取り組み状況

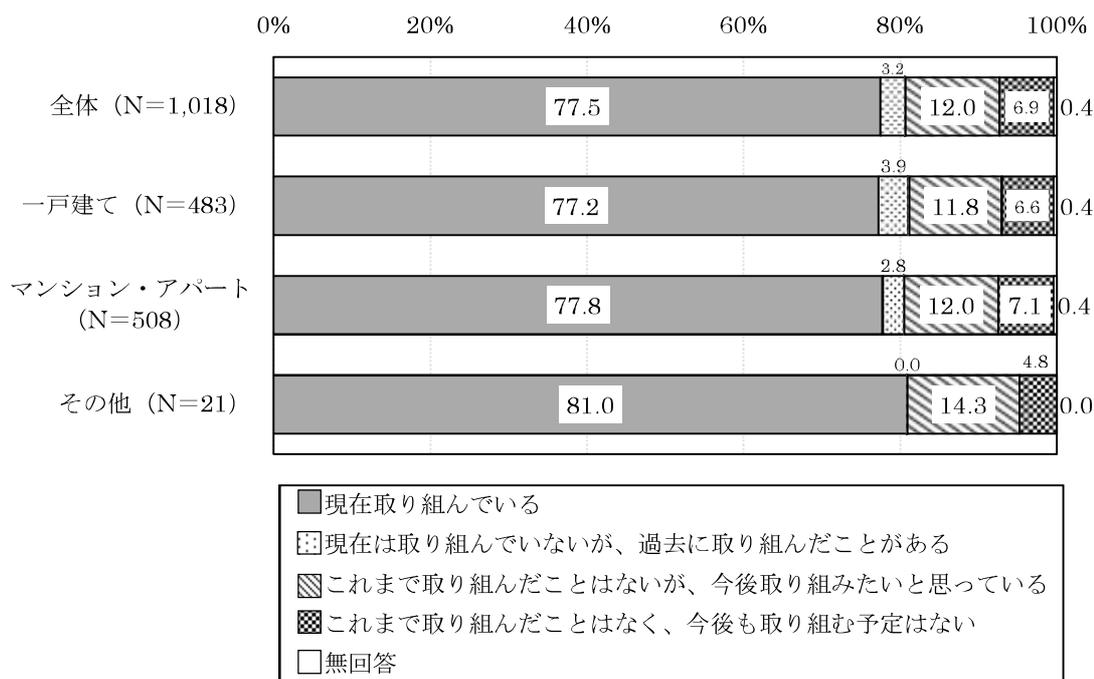


図 2-6 居住形態別 水切り取り組み状況

ここで、取り組み状況を水切りへの関心度別にみると、水切りについて『有効である』と回答した人では「現在取り組んでいる」が87.3%と多くっており、『ある程度有効である』と回答した人においても66.2%が「現在取り組んでいる」と回答している。

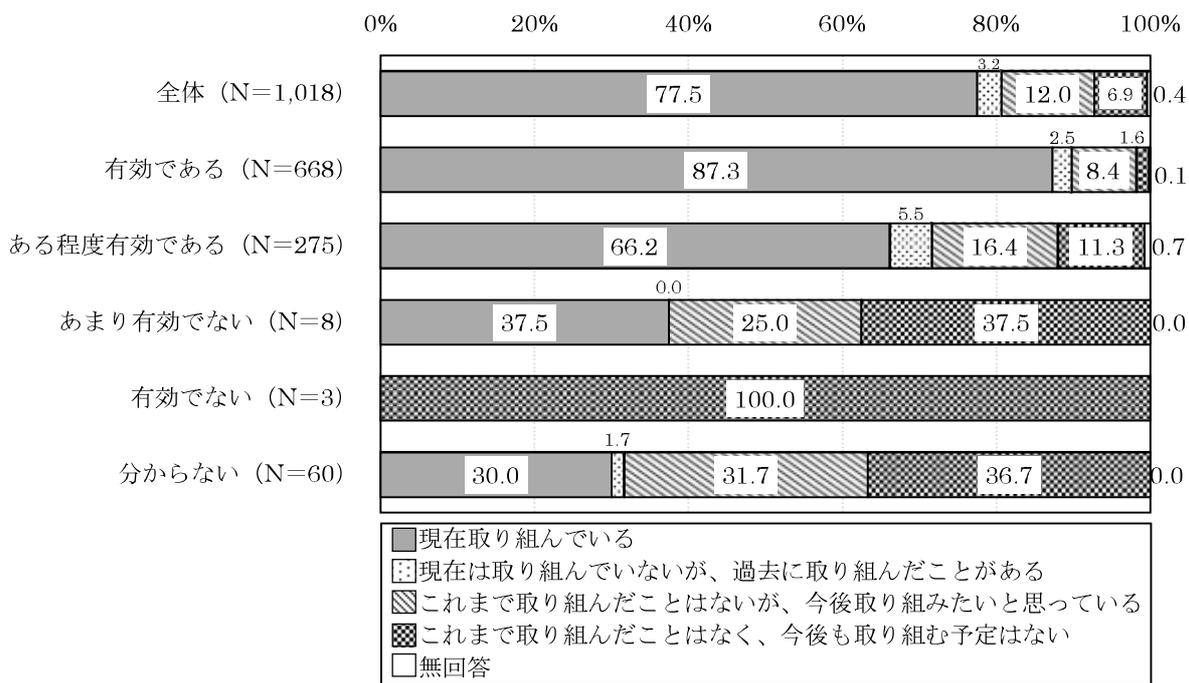


図 2-7 水切りへの関心度別 取り組み状況

(3) 取り組んでいる水切り方法

＜問 16 で「1 現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞

問 17 あなたの世帯ではどのような方法で水切りを行っていますか。(○は該当するものすべて)

水切りに「現在取り組んでいる」世帯の水切り方法については、「三角コーナーを使用」が65.7%で前回調査(66.5%)と同様に最も多く、以下、「手や水切り器などでしぼる」(42.1%)、「食材を洗う前に切る(濡らさない)」(12.4%)の順となっている。また、「その他」の内容としては、「タオル等で拭き取る」、「新聞紙に包む」などがあがっている。

前回調査と比べてもそれぞれの順位は変わっておらず、大きな差はみられない。

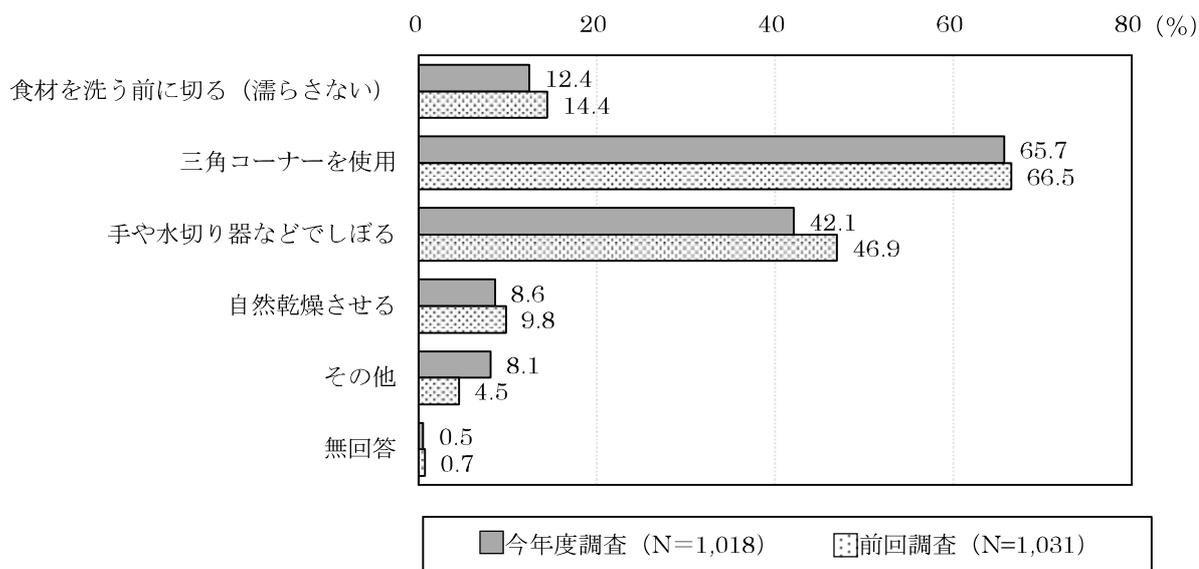


図 2-8 取り組んでいる水切り方法

(4) 水切りに取り組んでいる理由・目的

＜問 16 で「1 現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞
 問 18 あなたの世帯が水切りに取り組んでいる理由は何ですか。(○は1つ)

水切りに取り組んでいる主な理由・目的は、「燃やせるごみを減らしたいから」が39.4%と最も多く、以下、「においを減らしたいから」(26.4%)、「環境にいいことだから」(13.4%)の順となっている。また、「その他」の内容としては「ごみが重くて大変だから」、「虫の発生を防ぐため」、「袋が破けてごみ箱が汚れるのを防ぐため」などがあがっている。

なお、回答の多い順及び割合については、前回調査と大きな差はみられない。

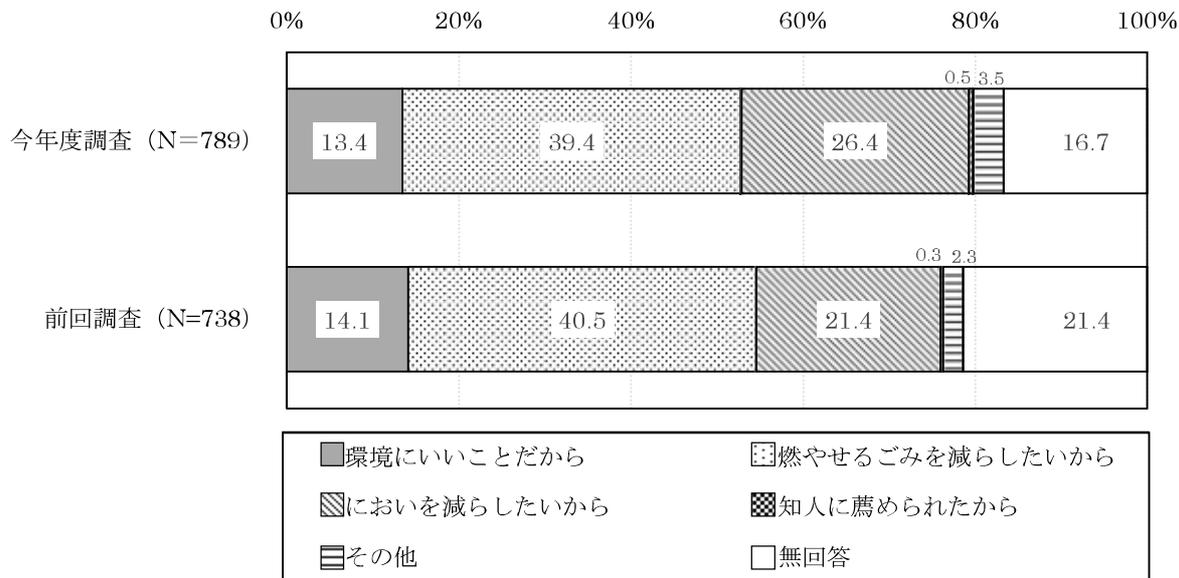


図 2-9 水切りに組んでいる理由・目的

(5) 水切り実践期間

問 19 水切りに取り組んでいる期間はどのくらいですか。なお、1年未満の場合は「1年」と記入してください。

水切りの実施期間は、「10年以上～20年未満」が25.3%と最も多く、次いで「1年以上～5年未満」(21.7%)、「20年以上～30年未満」(17.2%)となっている。なお、回答者の平均実践期間は15.5年である。

前回調査と比べてみると、平均実践期間は同じく15.5年であり、比率に多少の差はみられるものの全体的に大きな差はみられない。

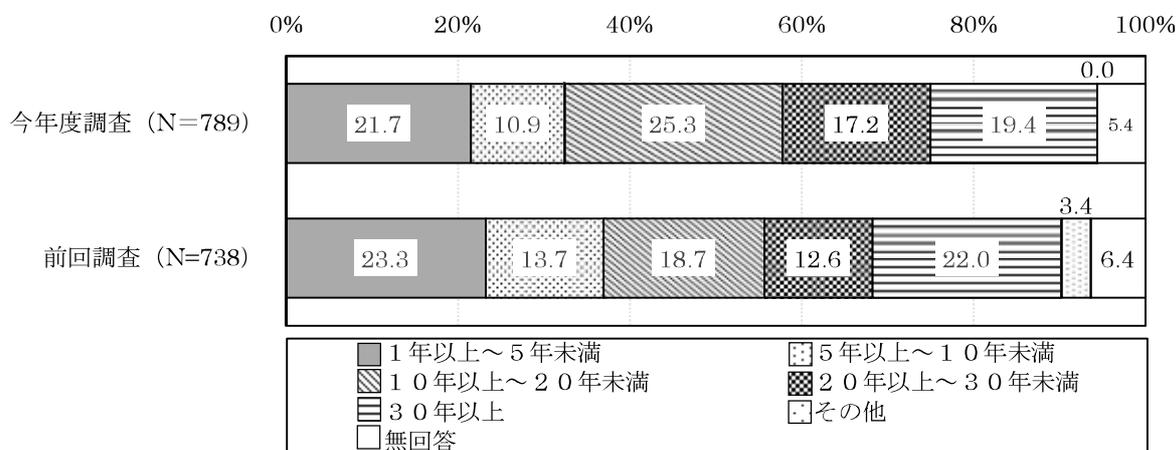


図 2-10 水切り実践期間

(6) 水切りに取り組んでいない理由

＜問16で「2 現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」、「3 これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」、「4 これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」に○をつけた方に伺います＞

問20 現在、水切りに取り組んでいない理由は何ですか。(○は該当するものすべて)

現在水切りに「取り組んでいない」人に理由を尋ねたところ、「手間がかかる」が44.4%と最も多く、以下、「方法がわからない」(27.1%)、「汚い・触りたくない」(23.1%)、「特に理由はない」(16.4%)の順となっている。また、「その他」の内容としては、「時間がかかる、量も多い」「水切りするほど生ごみが出ない」「やり方を知らない」などがあがっている。

なお、「手間がかかる」の割合は、前回に比べて4.5ポイント増加しており、逆に「減量効果がわからない」の割合は、1.7ポイント減少している。

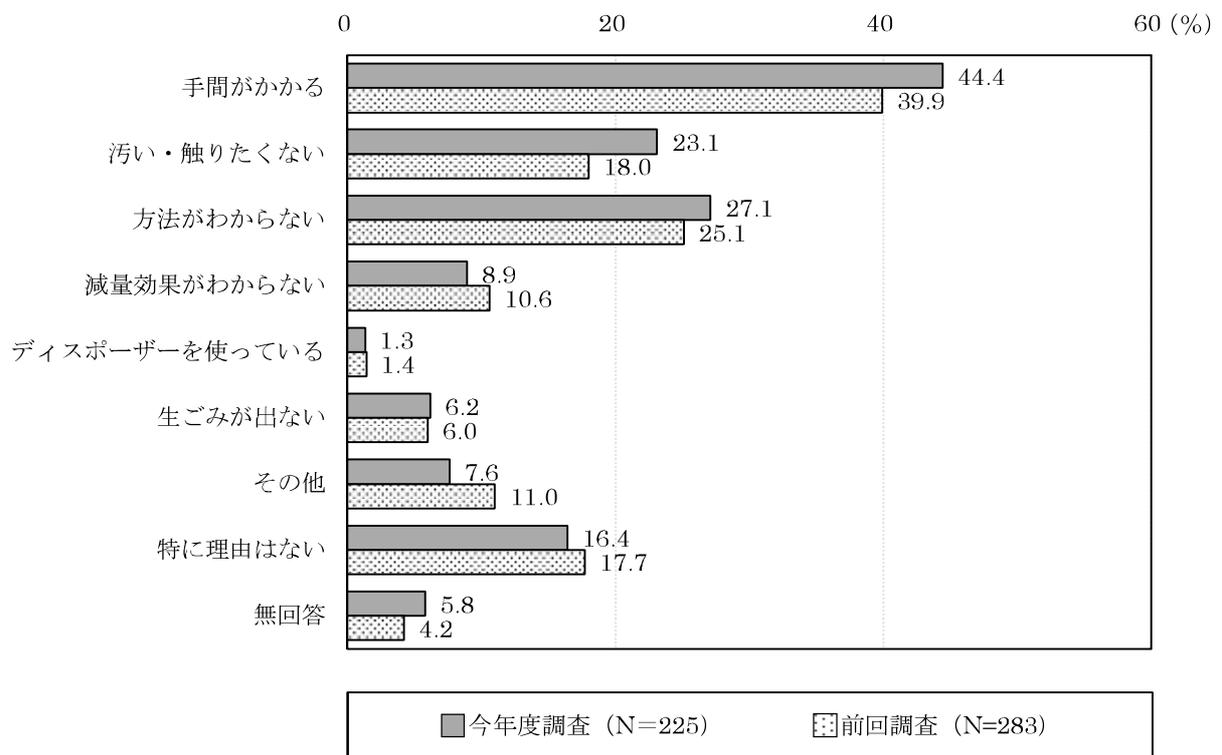


図2-11 水切りに取り組んでいない理由

3 生ごみ堆肥化の取組について

家庭における生ごみリサイクルの方法の一つとして、生ごみの堆肥化があります。札幌市では、家庭で取り組めるいくつかの堆肥化の方法をご紹介します。
生ごみ堆肥化の取組について、以下の質問にお答えください。

(1) 堆肥化への関心度

問 21 あなたは生ごみ減量・リサイクルの取組みとして、堆肥化は有効だと思いますか。
(○は1つ)

堆肥化への関心度については、「有効である」が47.7%と最も多く、「ある程度有効である」(35.6%)を合わせた『有効派』は83.3%と、前回調査(81.2%)同様8割を超えている。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない10歳代を除くと「有効である」の割合は30歳代で52.1%、70歳以上で55.2%と、他の年齢層に比べて高くなっている。

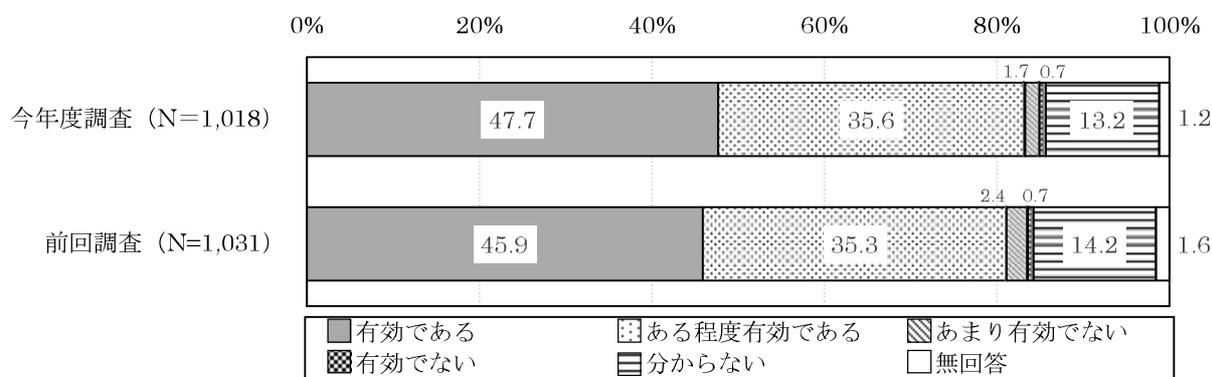


図3-1 堆肥化への関心度

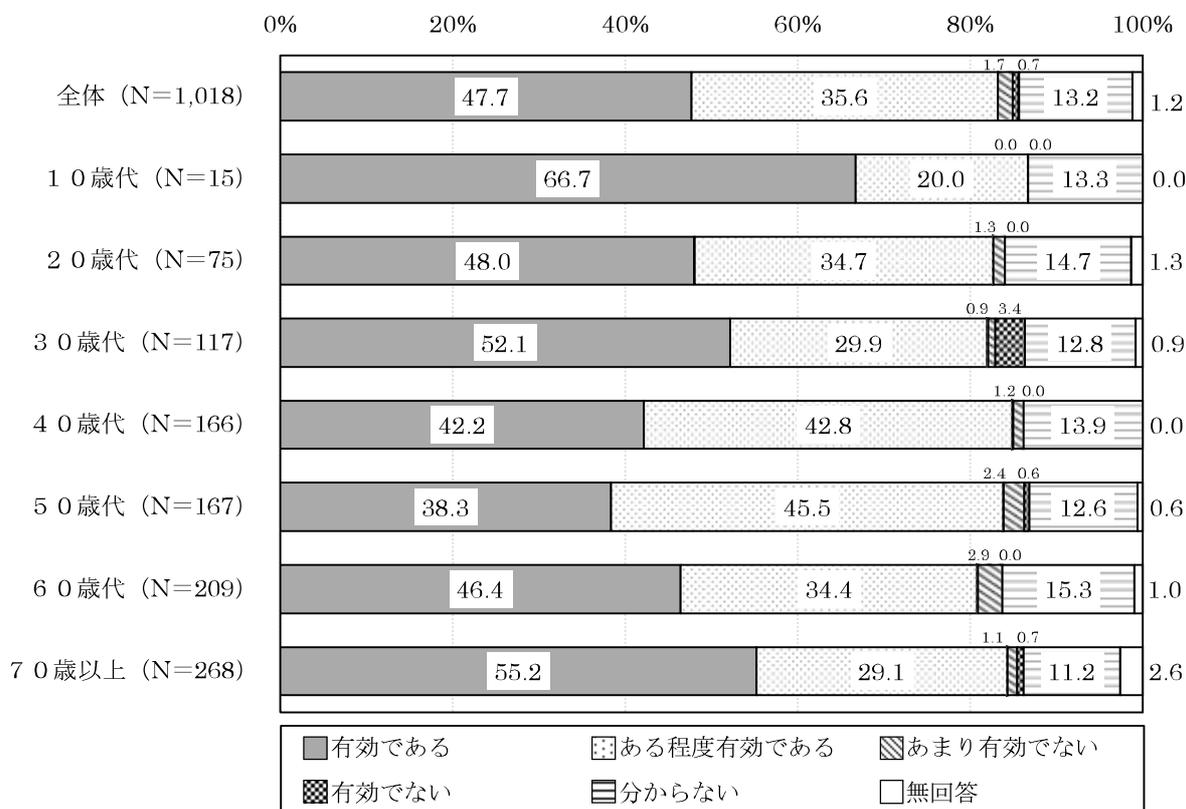


図3-2 年齢別 堆肥化への関心度

(2) 堆肥化への取り組み状況

問 22 あなたの世帯では生ごみ堆肥化に取り組んでいますか。(〇は1つ)

堆肥化への取り組み状況については、「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」が62.0%と最も多く（前回調査58.8%）、以下、「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」（15.1%）、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」（14.2%）、「現在取り組んでいる」（6.9%）となっている。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない10歳代を除くと、70歳以上の高齢層では他の年齢層に比べて「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」の割合は低く、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」の割合は高くなっている。

また、「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」の割合は、30歳代で23.1%、20歳代で20.0%と、他の年齢層に比べて高くなっている。

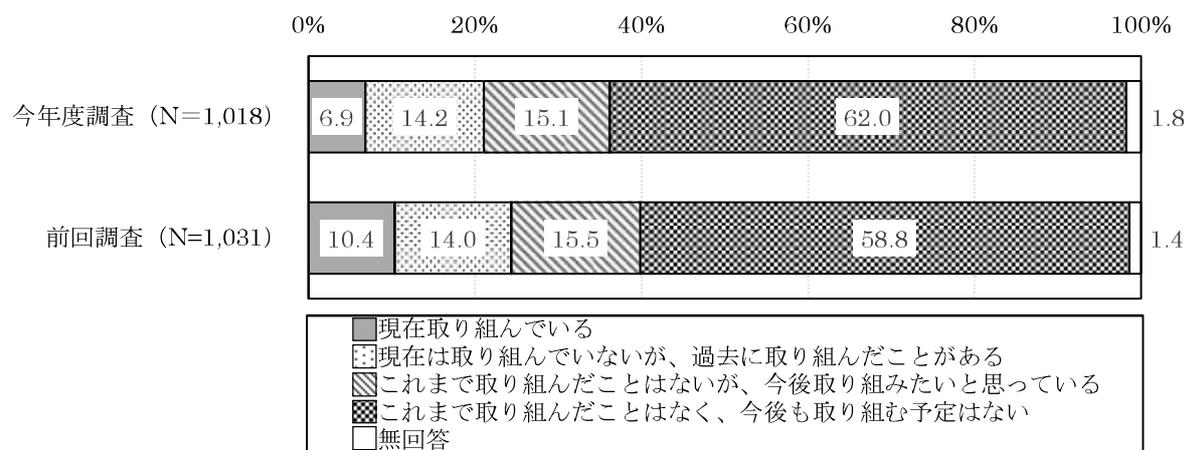


図 3-3 堆肥化への取り組み状況

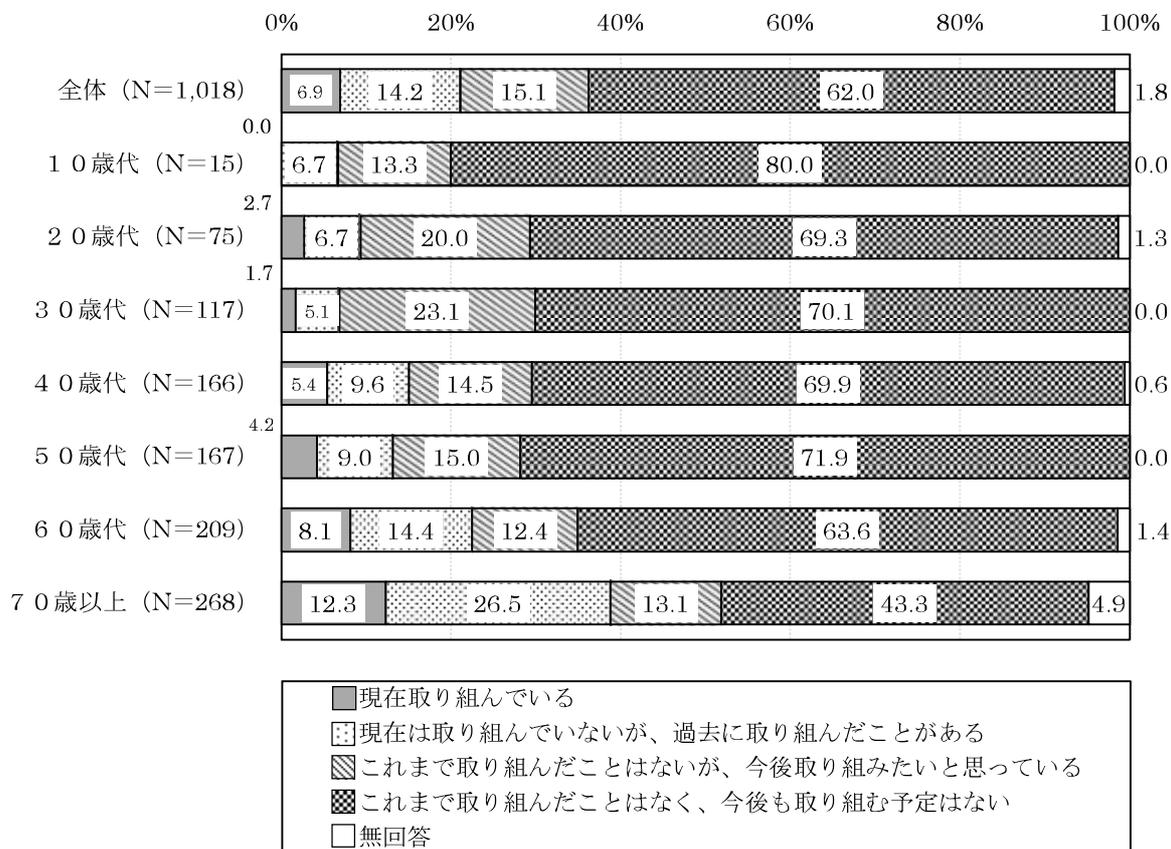


図 3-4 年齢別 堆肥化への取り組み状況

また、家族構成別でみると、『一人暮らし』世帯と『夫婦と子どものみ（核家族）』世帯では「これまで取り組んだことはなく、今後もし取り組む予定はない」の割合が他の世帯に比べて高くなっており、『親子二世帯』では「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」が他の世帯に比べて高くなっている。

一方、居住形態別では、「これまで取り組んだことはなく、今後もし取り組む予定はない」の割合は、『一戸建て』の50.1%に対し、『マンション・アパート』で72.8%と高くなっている。逆に、「現在取り組んでいる」については『一戸建て』で12.6%であるのに対し、『マンション・アパート』では1.8%、また、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」については『一戸建て』で18.2%であるのに対し、『マンション・アパート』では10.6%となっており、『一戸建て』の方が堆肥化の経験者が多くなっている。

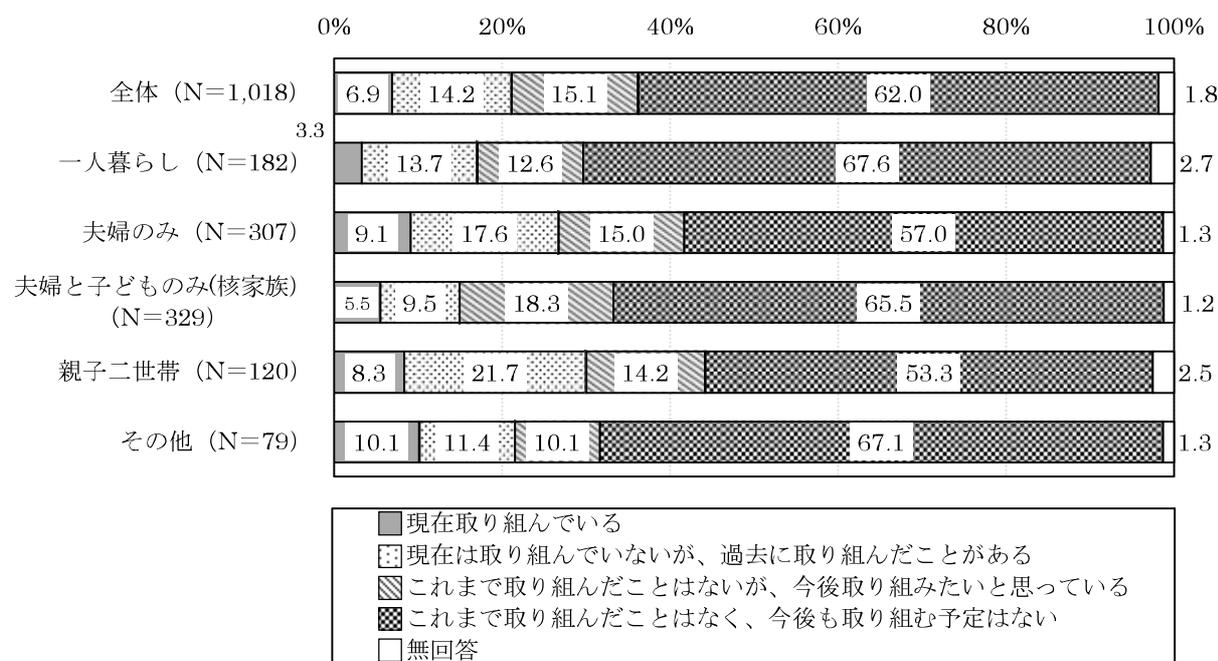


図3-5 家族構成別 堆肥化への取り組み状況

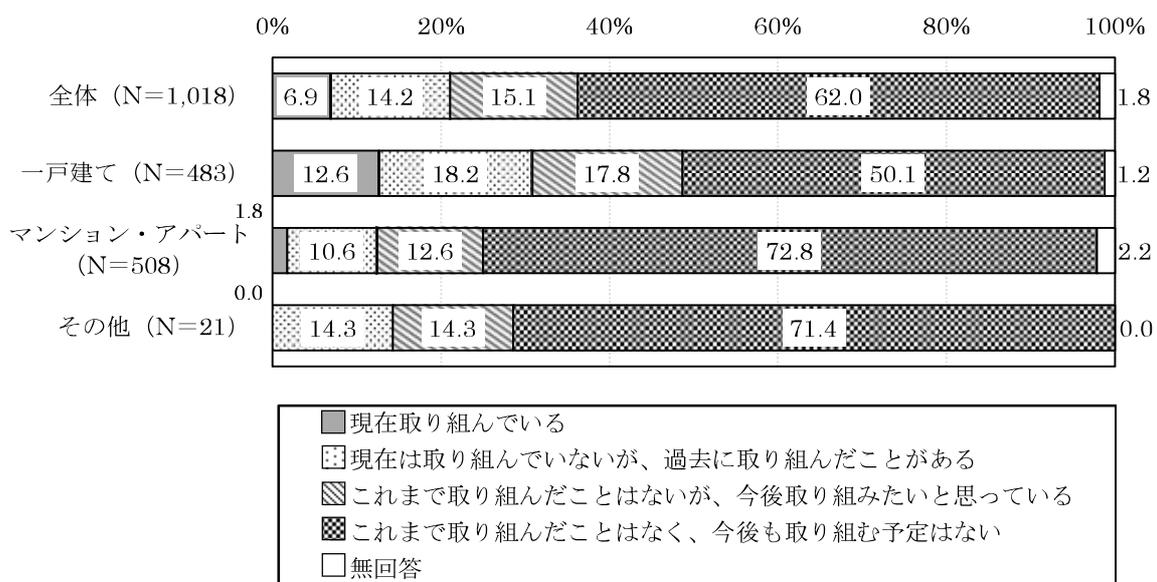


図3-6 居住形態別 堆肥化への取り組み状況

ここで、取り組み状況を堆肥化への関心度別にみると、いずれの関心度においても「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」が最も多くなっているが、特に堆肥化の有効性について『分からない』と回答した人では87.3%を占めている。

一方、堆肥化は『有効である』と回答した人では、「現在取り組んでいる」及び「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」の割合が、他の関心度に比べて高くなっている。

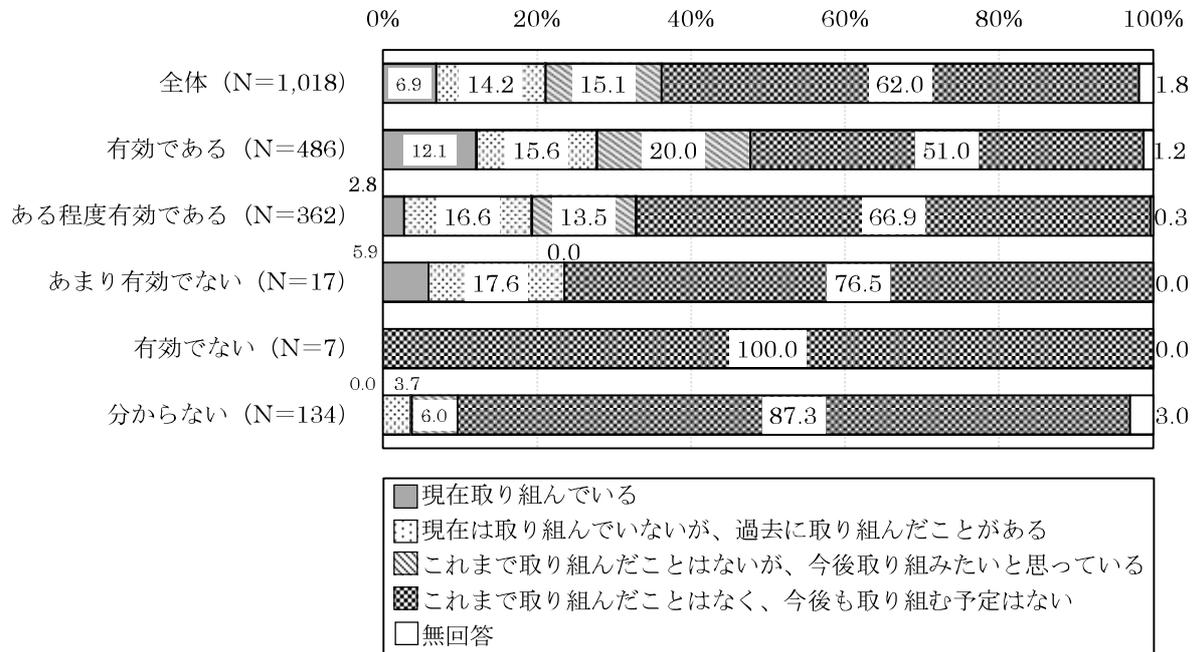


図3-7 堆肥化への関心度別 取り組み状況

(3) 取り組んでいる堆肥化の方法

＜問 22 で「1 現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞

問 23 あなたの世帯ではどのような堆肥化に取り組んでいますか。(○は該当するものすべて)

堆肥化に現在取り組んでいる人の堆肥化の方法としては、「コンポスター容器による堆肥化」が 51.4%と最も多く、以下、「電動生ごみ処理機の利用」(11.4%)、「ダンボール箱による堆肥化」(8.6%)、「密閉式容器による堆肥化」(7.1%)となっている。なお、「その他」の内容としては「コンポストスペースを手作り」、「畑に埋める」などがあがっている。

「コンポスター容器による堆肥化」は前回調査においても最も多かった(47.7%)が、今年度はそれをさらに 3.7 ポイント上回っている。逆に「ダンボール箱による堆肥化」と「密閉式容器による堆肥化」は前回調査と比較してそれぞれ減少している。

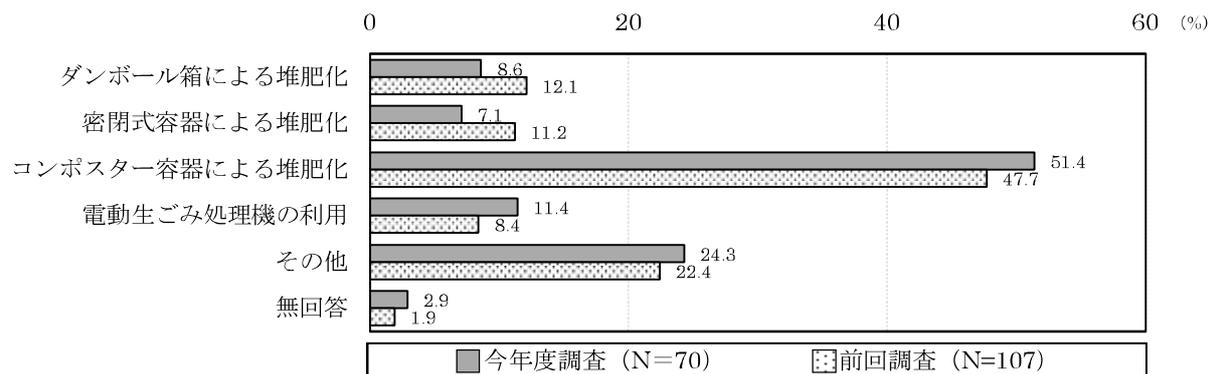


図 3-8 取り組んでいる堆肥化の方法

(4) 堆肥化実践期間

＜問 22 で「1 現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞

問 24 堆肥化に取り組んでいる期間はどのくらいですか。なお、1年未満の場合は「1年」と記入してください。

堆肥化実践期間は、「10年以上～20年未満」が 24.3%と最も多く、次に同率で「1年以上～5年未満」、「30年以上」(21.4%)となっている。なお、回答者の平均実践期間は 16.1 年である。

前回調査で上位 2 区分の「1年以上～5年未満」と「30年以上」は、今年度調査においては多少のポイント増減があるが、「5年以上～10年未満」は、今年度調査では 11.6 ポイント減少している。前回調査での平均実践期間は 14.2 年である。

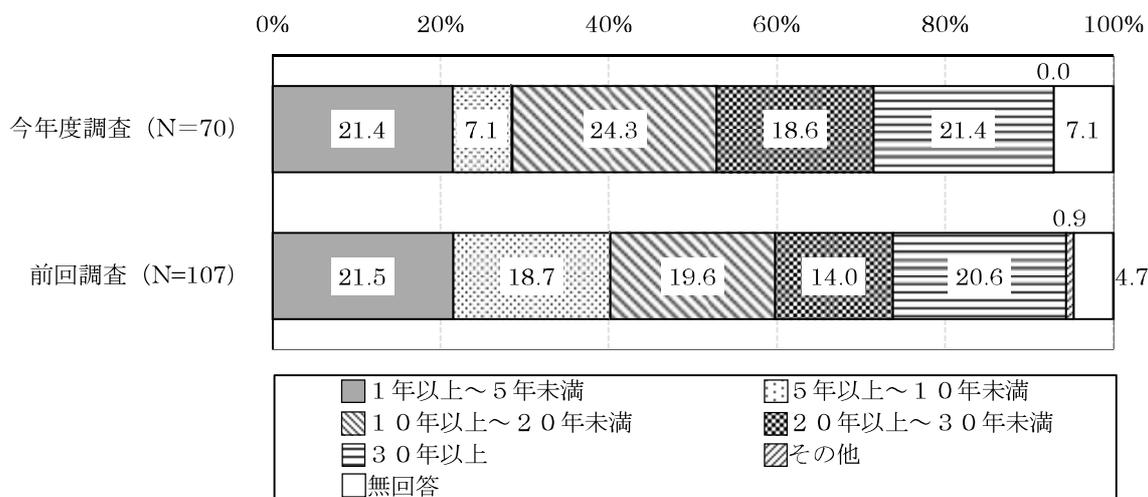


図 3-9 堆肥化実践期間

(5) 堆肥化に取り組んでいない理由

＜問 22 で「2 現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」、「3 これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」、「4 これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」に○をつけた方に伺います＞

問 25 現在、堆肥化に取り組んでいない理由は何ですか。（○は該当するものすべて）

堆肥化に取り組んでいない理由としては、「堆肥化容器の設置場所がない」が 43.1%と最も多く、次いで、「堆肥の使い道がない」(40.5%)、「虫、臭いが心配」(34.9%)、「手間がかかる」(30.5%)の順となっている。

なお、「その他」の内容としては、「ネズミが出た」「量がそもそも少ないので」「うまく堆肥にならなかった」などがあがっている。

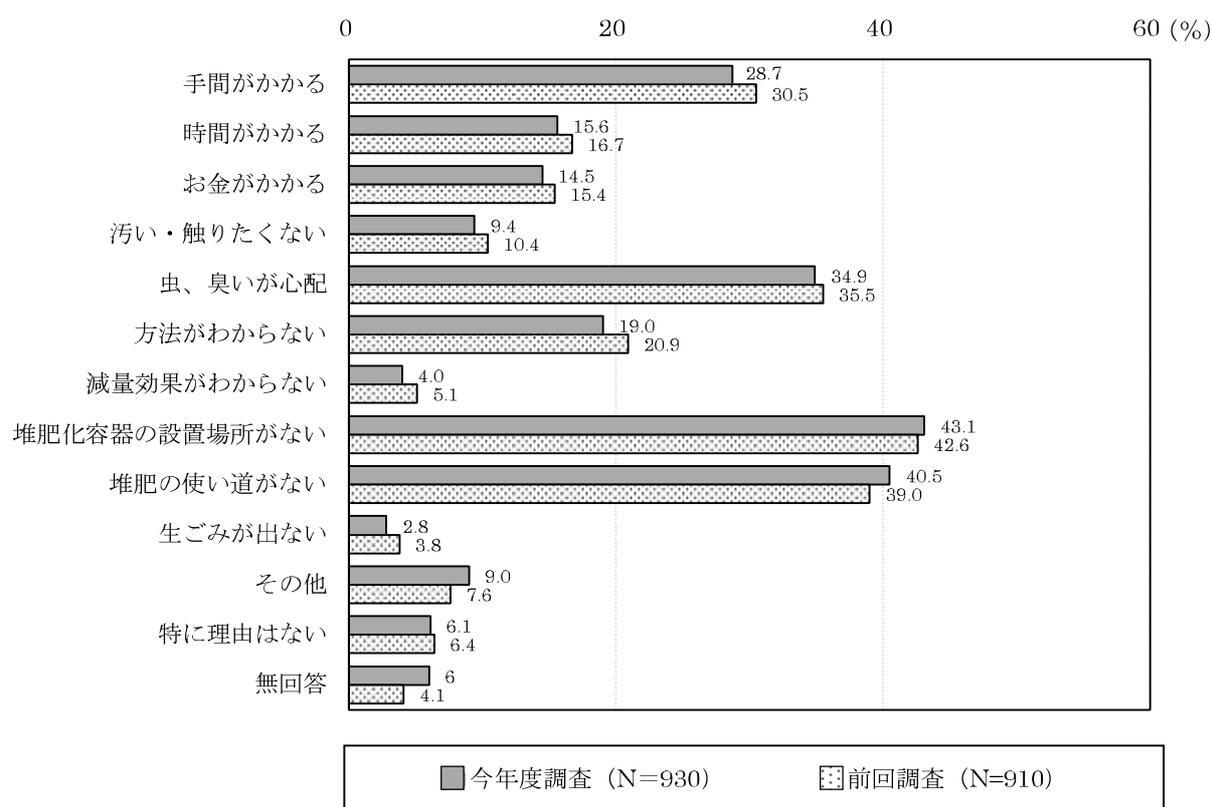


図 3-10 堆肥化に取り組んでいない理由

(6) 今後、取り組みたいと思っている堆肥化の方法

＜問 22 で「3 これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」に○をつけた方に伺います＞
 問 26 今後どのような方法で堆肥化に取り組みたいと思っていますか。(○は該当するものすべて)

今後、取り組みたいと思っている人に、希望する堆肥化方法について尋ねたところ、「密閉式容器による堆肥化」が 37.0%と最も多く、次いで、「電動生ごみ処理機の利用」(26.6%)、「コンポスター容器による堆肥化」(23.4%)、「ダンボール箱による堆肥化」(14.9%)の順となっている。

「その他」の内容としては、「どの方法もやり方がわからないので選べない」「手間のかからない方法で取り組みたい」などがあがっている。

前回調査と比較してもそれぞれの項目の順位に変動はないものの、「コンポスター容器による堆肥化」が 2.8 ポイント増加しており、「ダンボール箱による堆肥化」「密閉型容器による堆肥化」「電動生ごみ処理機の利用」はそれぞれ減少している。

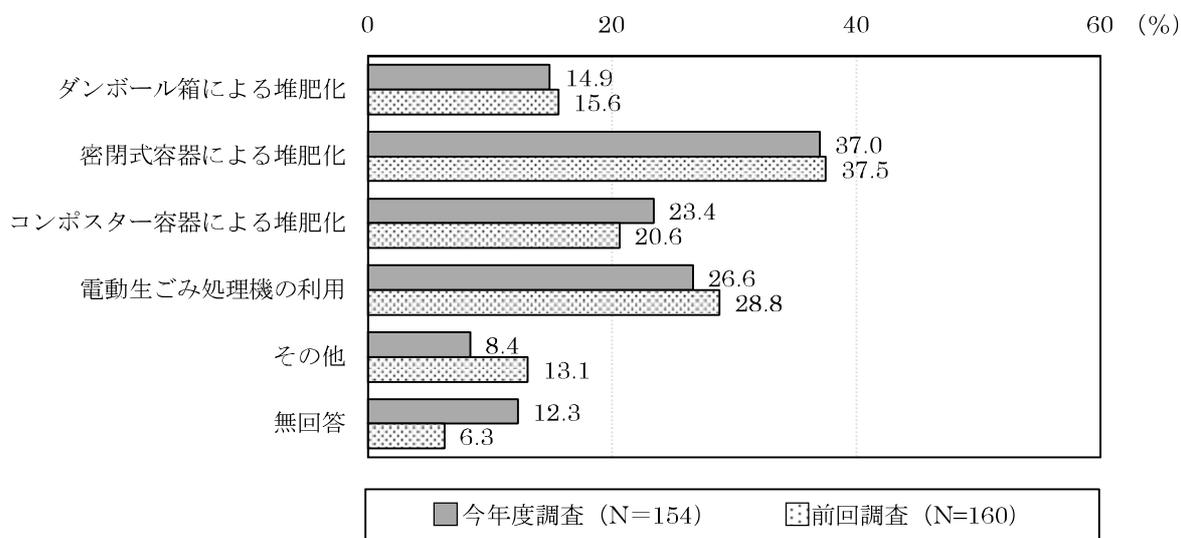


図 3-11 今後、取り組みたいと思っている堆肥化の方法

4 生ごみ減量の施策について

札幌市では、家庭で生ごみの減量・資源化に取り組んでいただくために、様々な施策を実施し、市民の皆様にご案内しています。
 生ごみの減量・資源化に関する施策について、以下の質問にお答え下さい。

(1) 生ごみ堆肥化セミナーの認知度

問 27 札幌市で実施している「生ごみ堆肥化セミナー」をご存知ですか。(○は1つ)

生ごみセミナーの認知度は、「知らない」が79.5%と最も多く、前回調査(77.3%)から2.2ポイント増加している。以下、「知っているが参加したことはない」(17.4%)、「参加したことがある」(1.9%)となっている。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない10歳代を除くと、60歳代(19.1%)及び70歳以上(34.0%)の高齢層では他の年齢層に比べて、「知っているが参加したことはない」の割合が高くなっている。

また、「知らない」の割合は、20歳代で93.3%、30歳代で94.9%と、他の年齢層に比べて高くなっている。

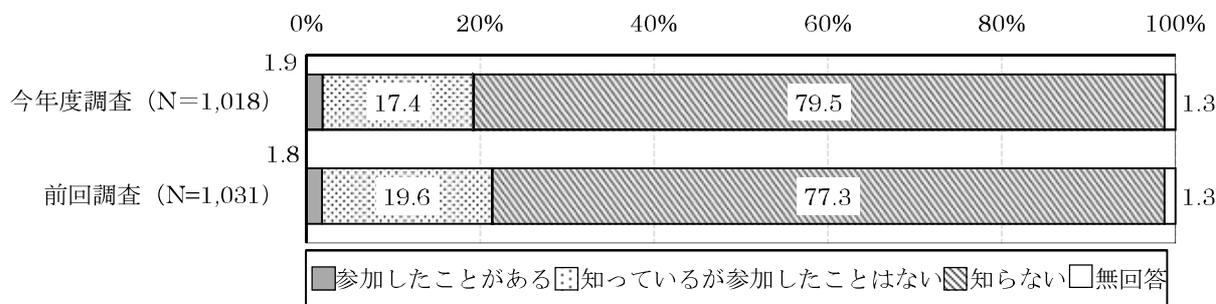


図 4-1 生ごみ堆肥化セミナーの認知度

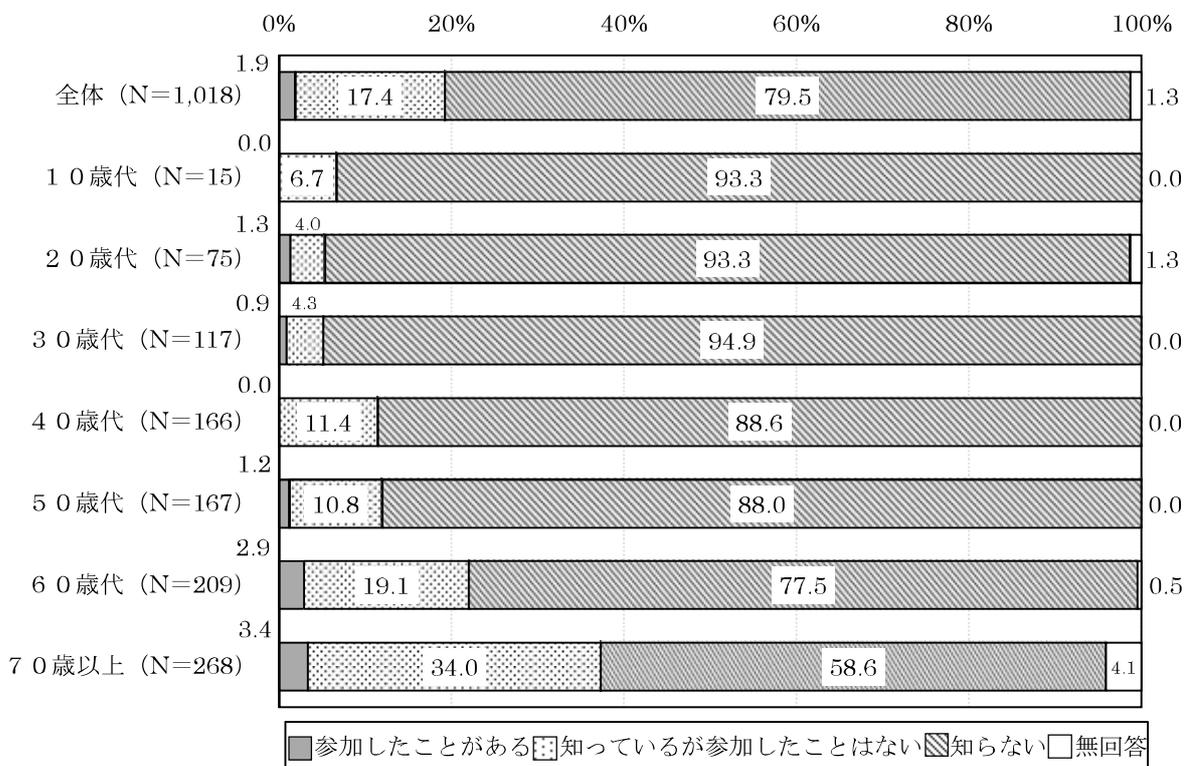


図 4-2 年齢別 生ごみ堆肥化セミナーの認知度

また、家族構成別では、回答者数の少ない『その他』を除くと、すべての世帯で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが参加したことはない」となっており、特に家族構成による大きな違いはみられない。

さらに、居住形態別にみると、回答者数の少ない『その他』を除くと、一戸建て、マンション・アパートとも「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが参加したことはない」となっており、居住形態による大きな差はみられない。

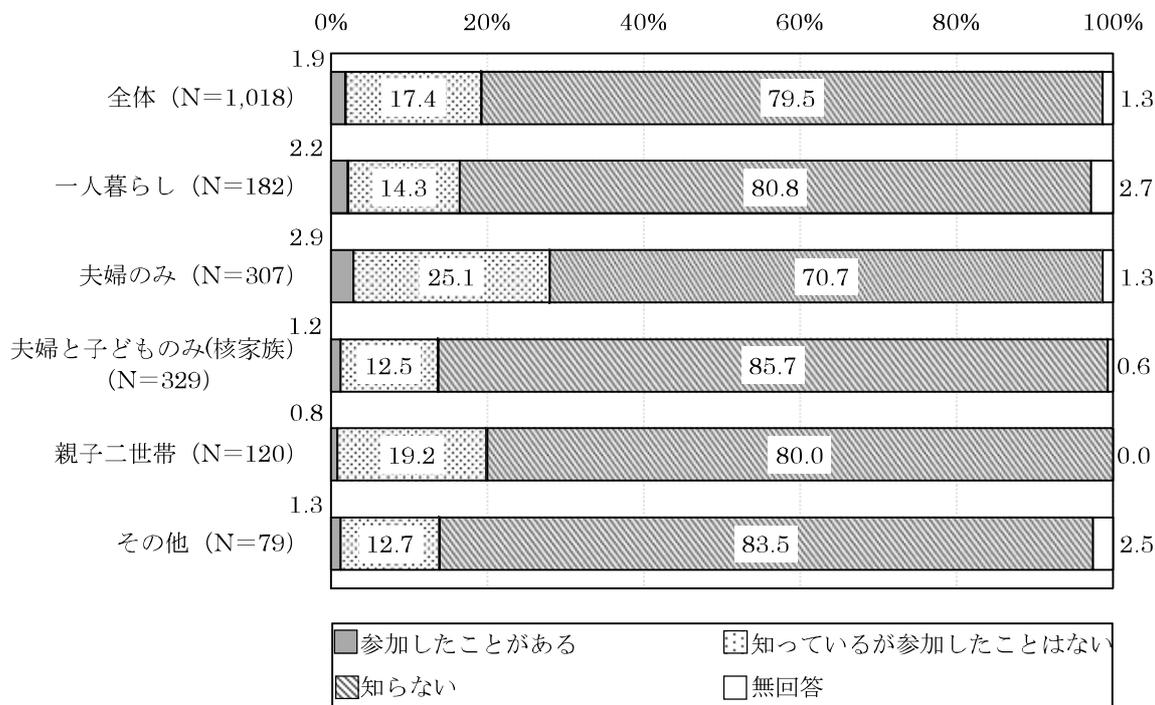


図 4-3 家族構成別 生ごみ堆肥化セミナーの認知度

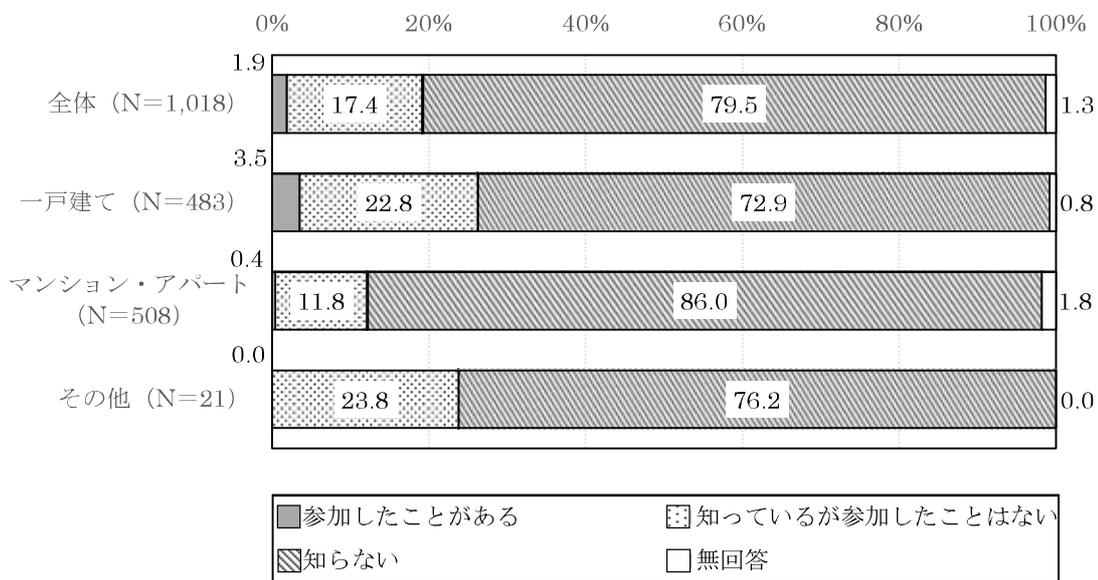


図 4-4 居住形態別 生ごみ堆肥化セミナーの認知度

ここで、認知度を堆肥化への関心度別にみると、『分からない』と回答した人では「知らない」の割合が91.8%と、他に比べて高くなっているほかは、『有効である』及び『ある程度有効である』のいずれにおいても、全体の傾向と大きな差はみられない。

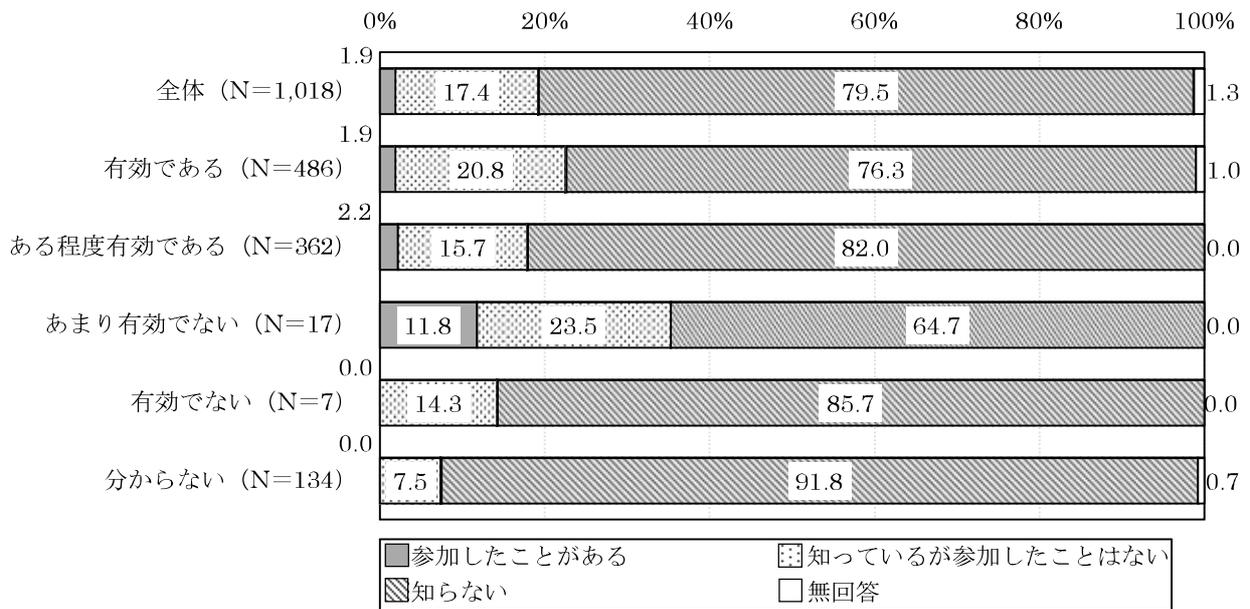


図4-5 堆肥化への関心度別 生ごみ堆肥化セミナーの認知度

(2) 生ごみ堆肥化セミナーの認知情報媒体

＜問27で「1 参加したことがある」、「2 知っているが参加したことはない」に○をつけた方に伺います＞

問28 何で「生ごみ堆肥化セミナー」を知りましたか。(○は該当するものすべて)

生ごみ堆肥化セミナーを「参加したことがある」又は「知っているが参加したことはない」人の認知情報媒体としては、前回調査(82.4%)と同様に「広報さっぽろを見て」が81.6%と最も多くなっている、以下、「公共施設での配布チラシを見て」(16.3%)、「市ホームページやSNSを見て」(6.6%)の順となっており、全体的な傾向は前回調査と変わらない。

なお、「その他」の内容としては、「町内会で堆肥の説明会があった」「区役所に行き知った」などがあがっている。

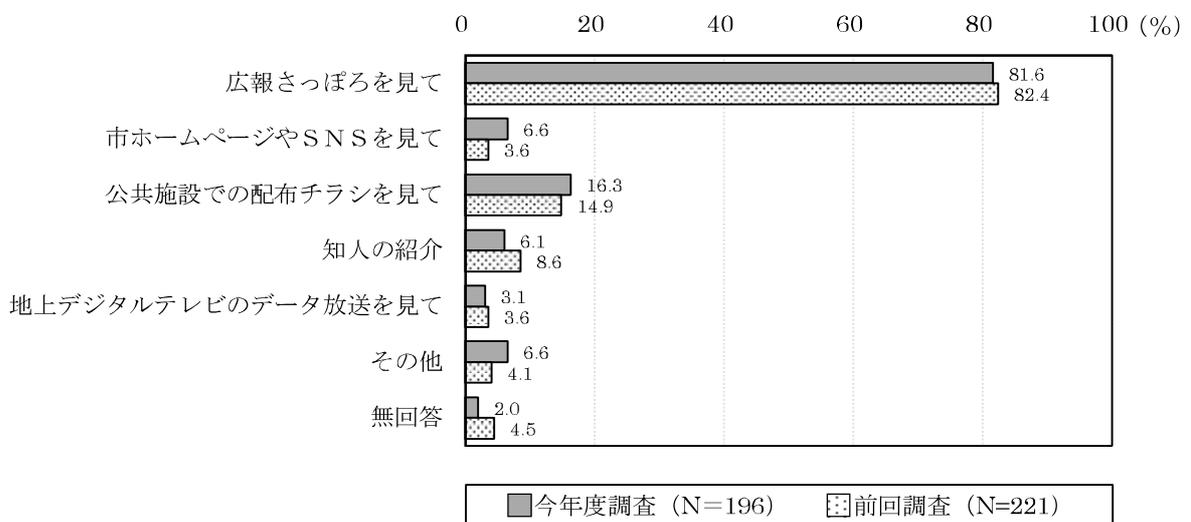


図4-6 生ごみ堆肥化セミナーの認知情報媒体

(3) 生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

問 29 札幌市が開設している「生ごみ堆肥化相談窓口」(電話、FAX、Eメールでの相談)をご存知ですか。(○は1つ)

生ごみ堆肥化相談窓口の認知度は、「知らない」が90.8%と最も多く、以下、「知っているが利用したことはない」(7.5%)、「利用したことがある」(0.2%)となっている。前回調査と比べると「知らない」の回答が4.5ポイント増加している。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない10歳代を除くと、60歳代(9.1%)及び70歳以上(16.4%)の高齢層では他の年齢層に比べて、「知っているが利用したことはない」の割合が高くなっている。

また、「知らない」の割合は、70歳以上を除く全ての年代で9割を超えている。

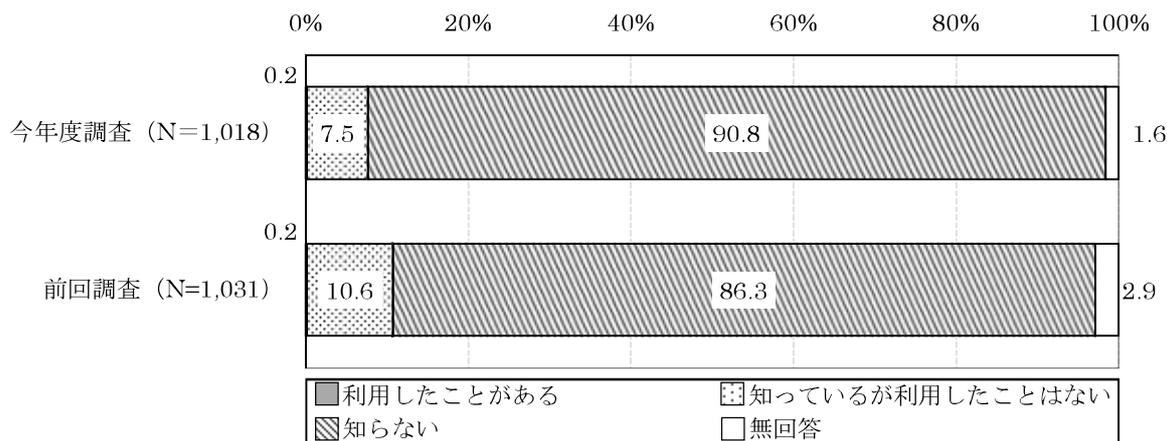


図 4-7 生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

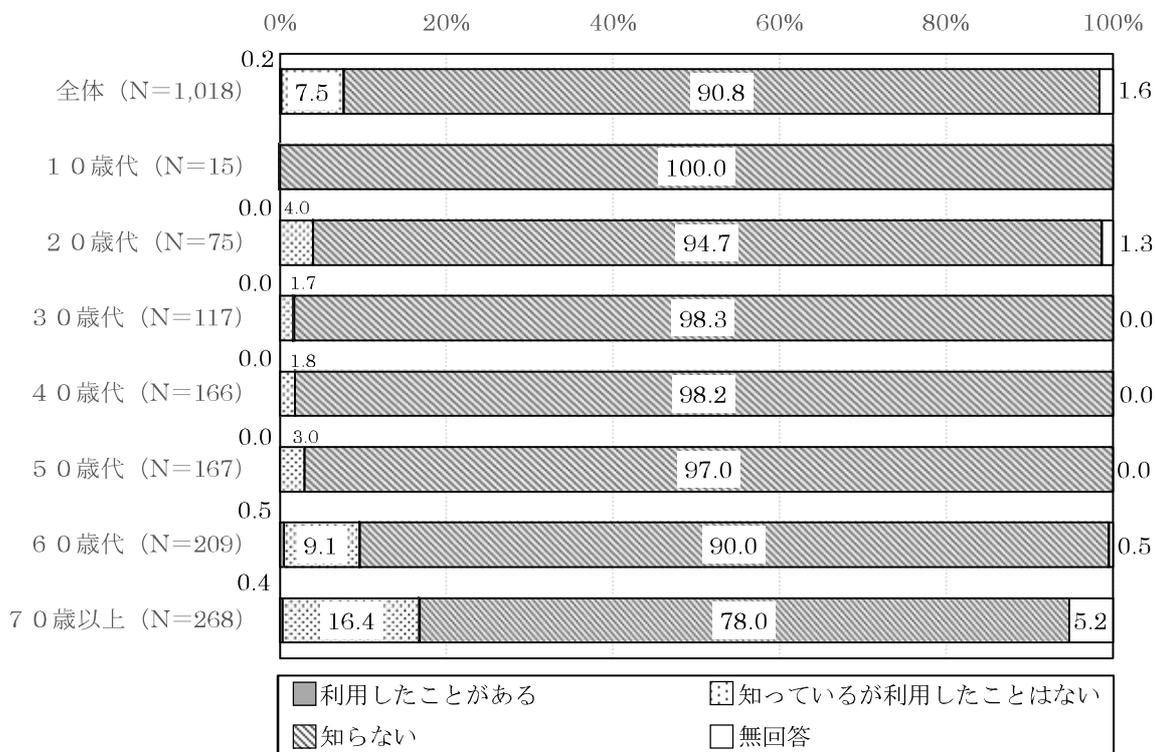


図 4-8 年齢別 生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

また、家族構成別では、回答者数の少ない『その他』を除くと、すべての世帯で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、特に家族構成による大きな違いはみられない。

さらに、居住形態別にみると、回答者数の少ない『その他』を除くと、一戸建て、マンション・アパートとも「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、居住形態による大きな差はみられない。

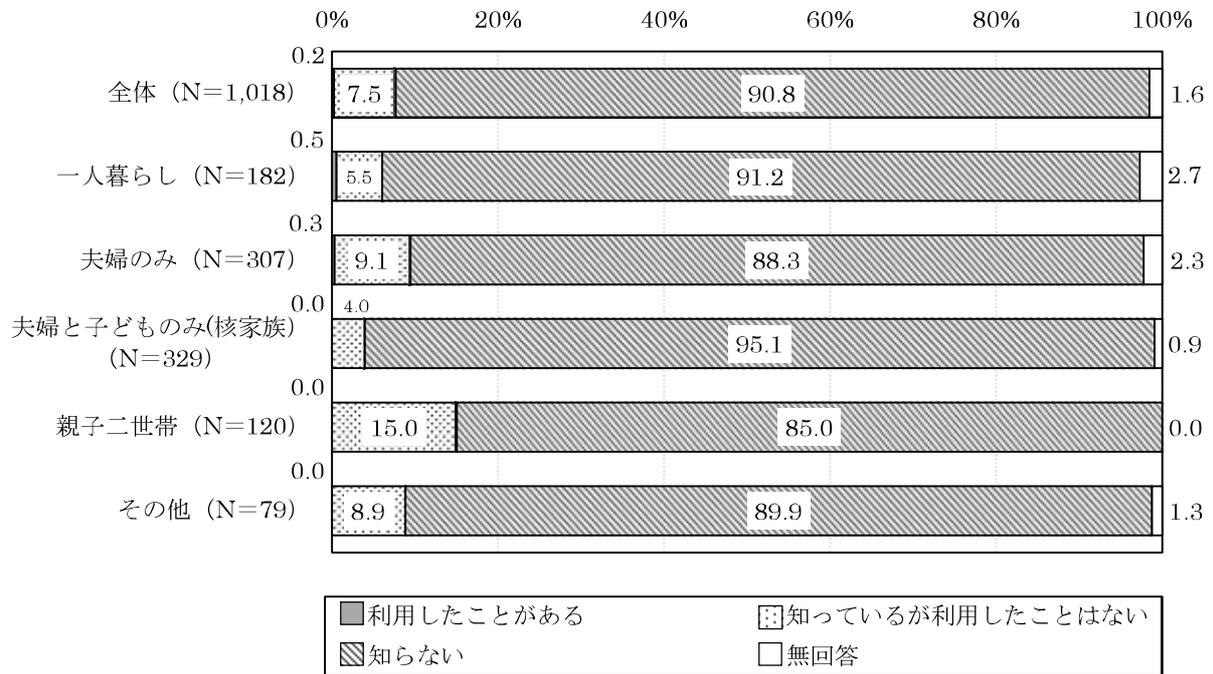


図 4-9 家族構成別 生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

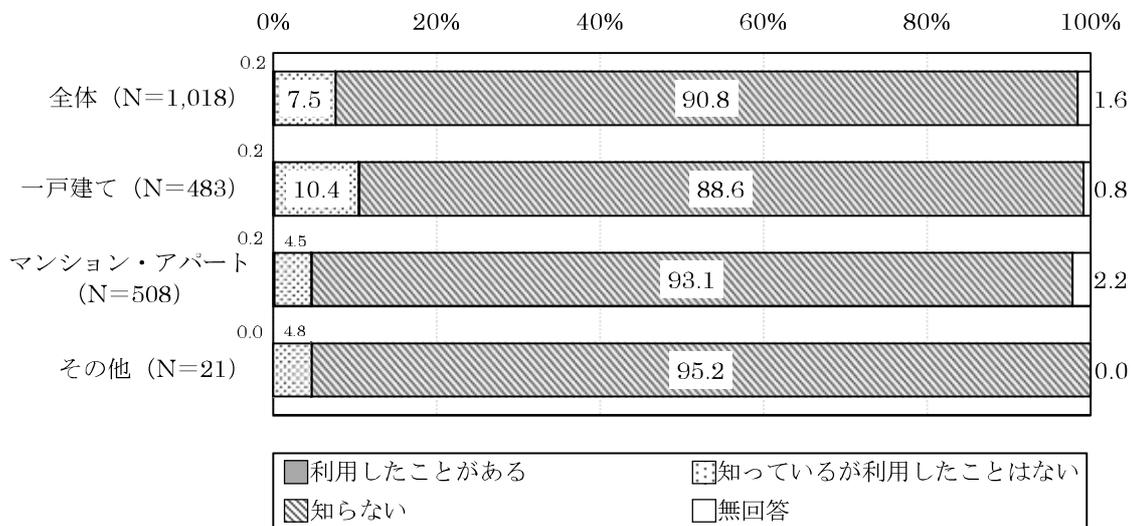


図 4-10 居住形態別 生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

一方、認知度を堆肥化への関心度別にみると、『有効である』及び『ある程度有効である』のいずれにおいても、全体の傾向と大きな差はみられない。

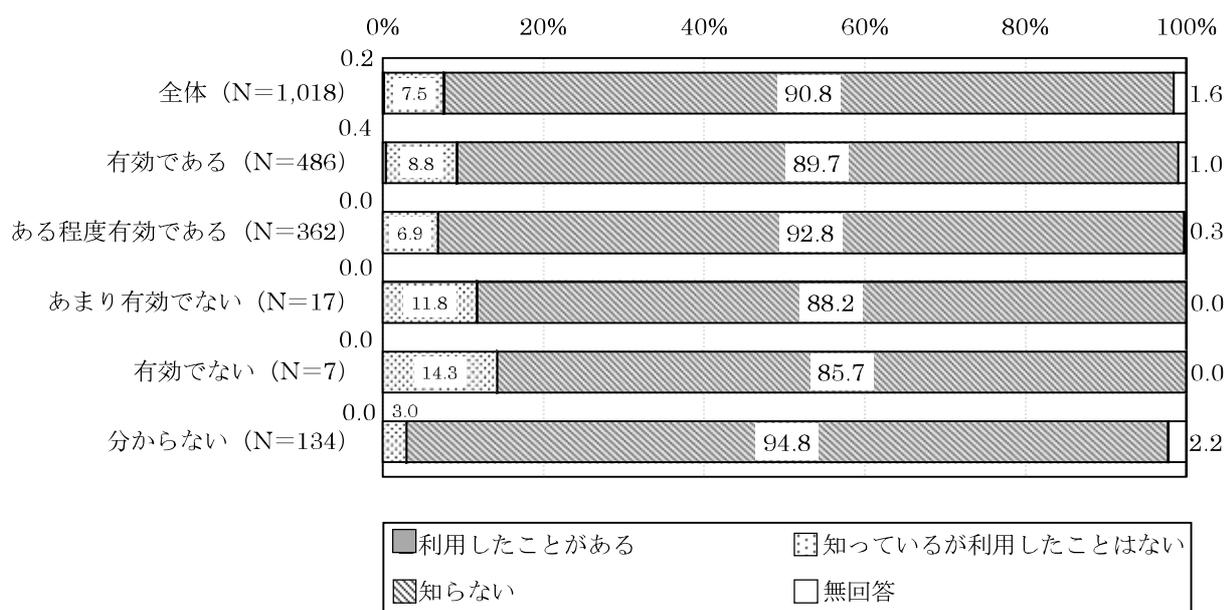


図 4-11 堆肥化への関心度 相談窓口の認知度

(4) 生ごみ堆肥化相談窓口の認知情報媒体

＜問 29 で「1 利用したことがある」、「2 知っているが利用したことはない」に○をつけた方に伺います＞

問 30 何で「生ごみ堆肥化相談窓口」を知りましたか。(○は該当するものすべて)

生ごみ堆肥化相談窓口を「利用したことがある」又は「知っているが利用したことはない」人の認知情報媒体としては、「広報さっぽろを見て」が 82.1%と最も多く、以下、「公共施設での配布チラシを見て」(15.4%)、「市ホームページや SNS を見て」(9.0%) の順となっている。

「広報さっぽろを見て」の割合は前回調査に比べて 1.7 ポイント減少しているが、「市ホームページや SNS を見て」は 4.5 ポイント増加している。

なお、「その他」の内容としては、「老人クラブ」「町内の回覧板」などがあがっている。

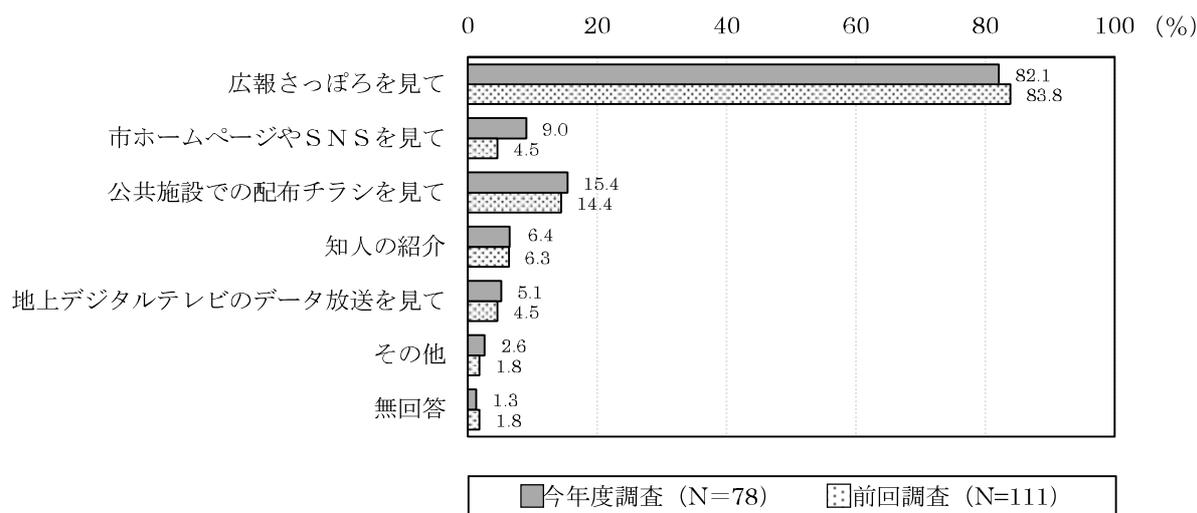


図 4-12 生ごみ堆肥化相談窓口の認知情報媒体

(5) 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

問 31 札幌市が行っている電動生ごみ処理機や堆肥化器材の購入助成の制度をご存知ですか。
(○は1つ)

生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度は、「知らない」が79.8%と最も多く、以下、「知っているが利用したことはない」(16.4%)、「利用したことがある」(2.2%)となっている。

前回調査と比べてみると「知らない」は1.6ポイント増加している。逆に「知っているが利用したことはない」は1.3ポイント減少している。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない10歳代を除くと、すべての年代で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、比率に多少の差はみられるものの年齢による大きな差はみられない。

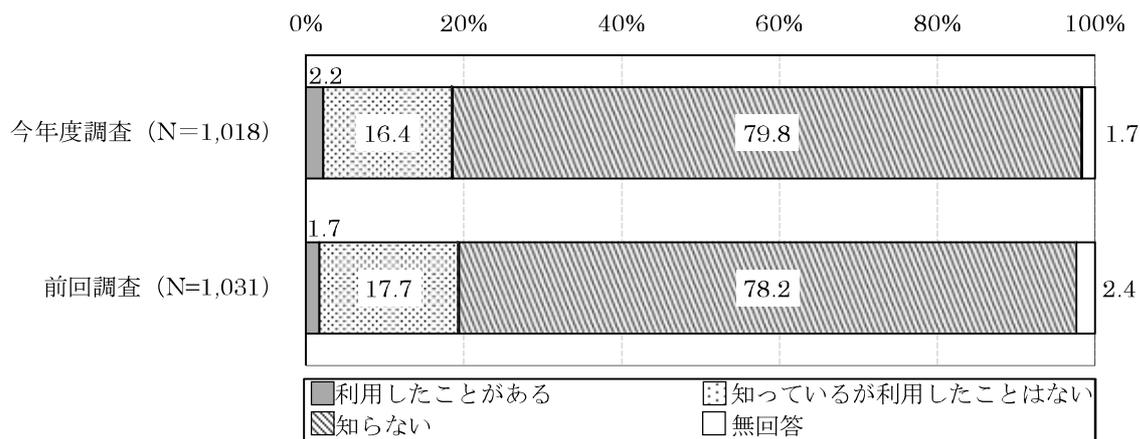


図 4 - 1 3 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

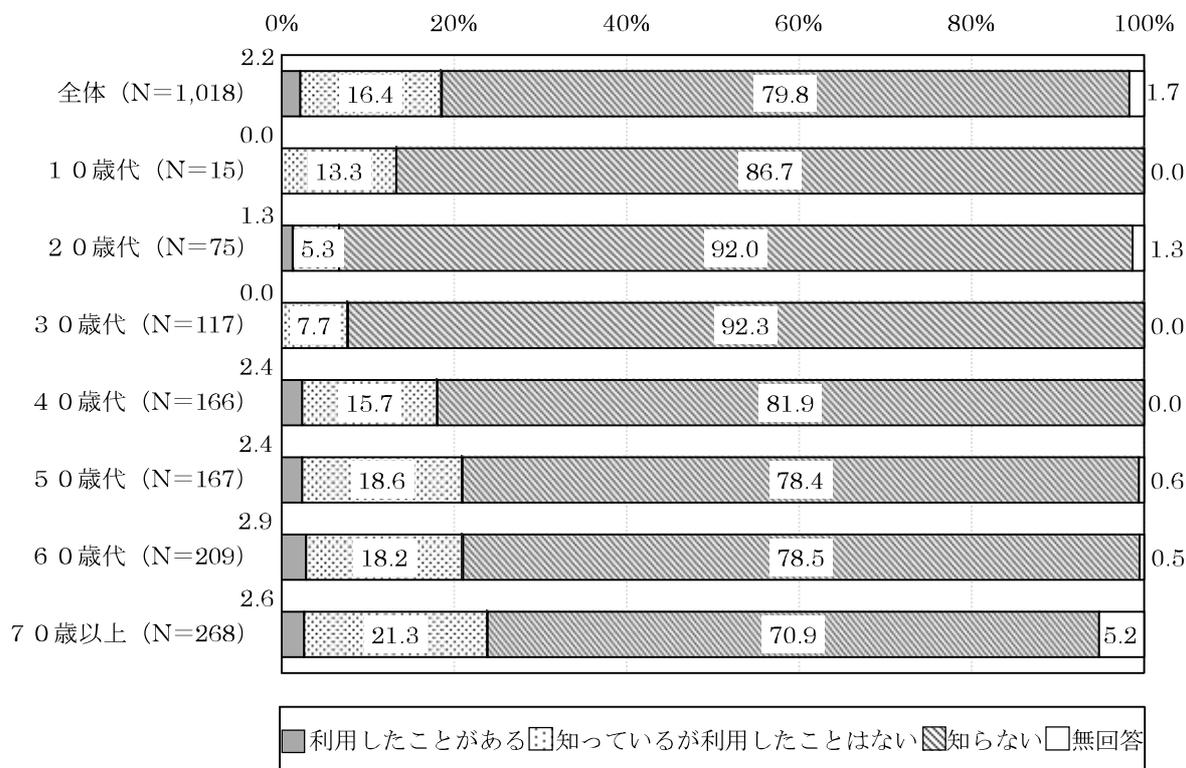


図 4 - 1 4 年齢別 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

また、家族構成別では、回答者数の少ない『その他』を除くと、すべての世帯で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、特に家族構成による大きな違いはみられない。

さらに、居住形態別にみると、回答者数の少ない『その他』を除くと、一戸建て、マンション・アパートとも「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、比率に多少の差はみられるものの居住形態による大きな差はみられない。

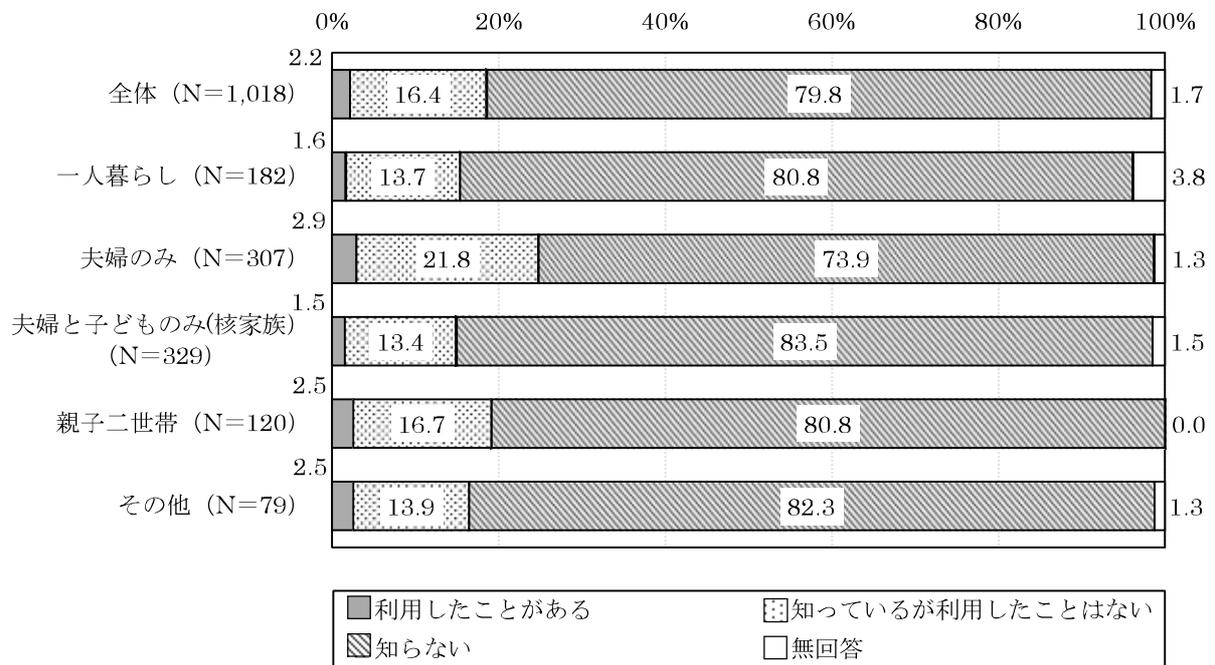


図 4-15 家族構成別 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

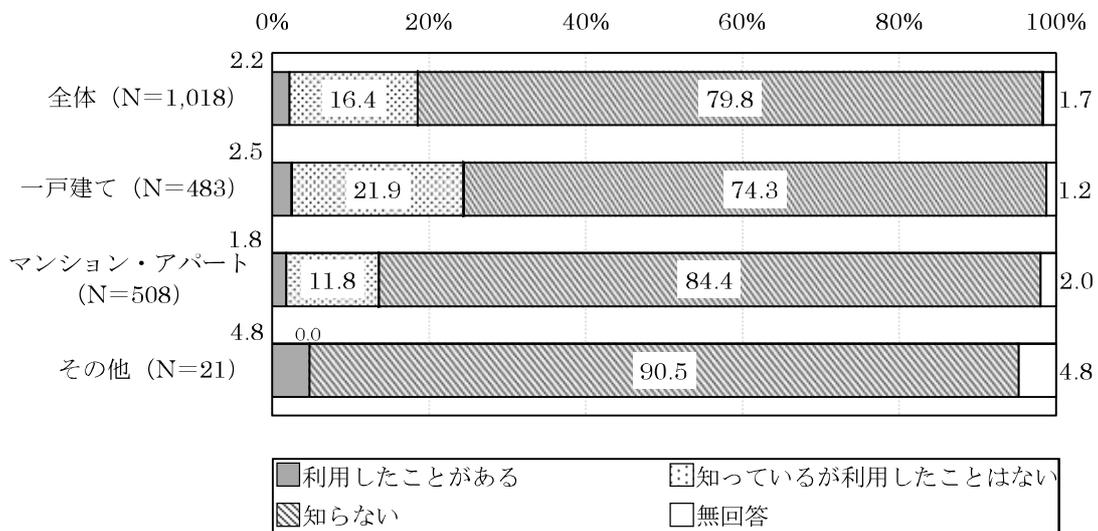


図 4-16 居住形態別 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

ここで、認知度を堆肥化への関心度別にみると、『分からない』と回答した人では「知らない」の割合が85.8%と、他に比べて高くなっているほかは、『有効である』及び『ある程度有効である』のいずれにおいても、全体の傾向と大きな差はみられない。

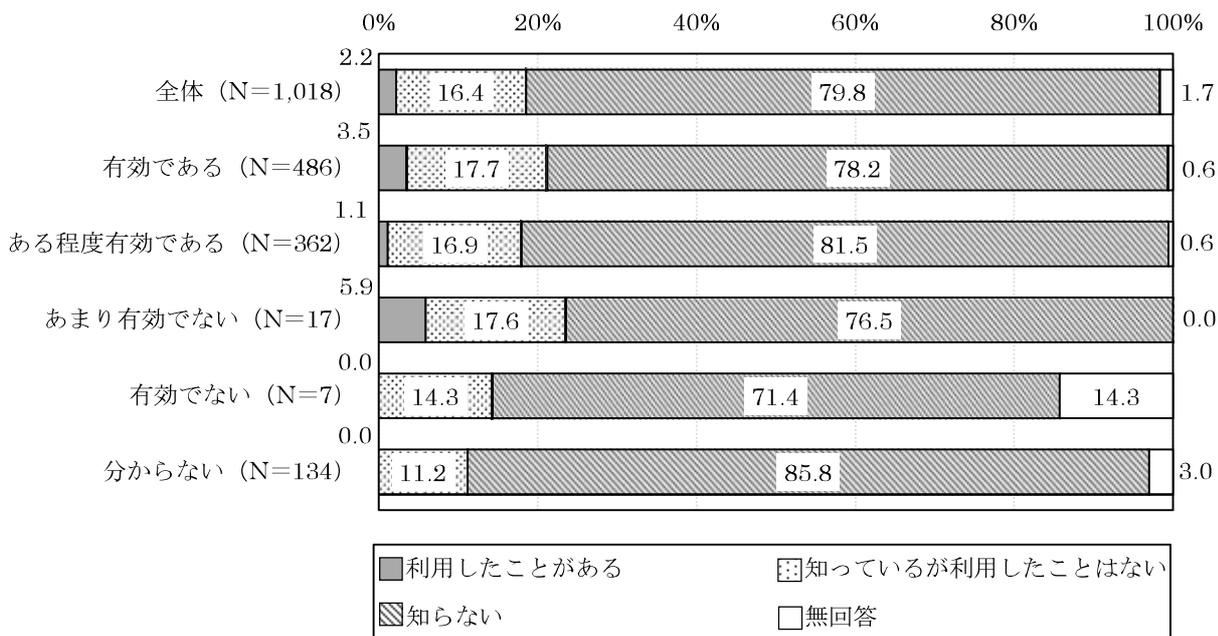


図4-17 堆肥化への関心度別 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

(6) 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知情報媒体

＜問31で「1 利用したことがある」、「2 知っているが利用したことはない」に○をつけた方に伺います＞

問32 何で「購入助成制度」を知りましたか。(○は該当するものすべて)

生ごみ堆肥化機材購入助成制度を「利用したことがある」又は「知っているが利用したことはない」人の認知情報媒体としては、「広報さっぽろを見て」が74.1%と最も多く、以下、「ごみ分けガイドを見て」(15.9%)、「市ホームページやSNSを見て」(10.1%)の順となっており、前回調査と比較すると「市ホームページやSNSを見て」の回答が増加し、その他は減少している。

なお、「その他」の内容としては、「家電量販店のポスター」、「知人が使用していたことがあるため」、「親戚が利用した」などがあがっている。

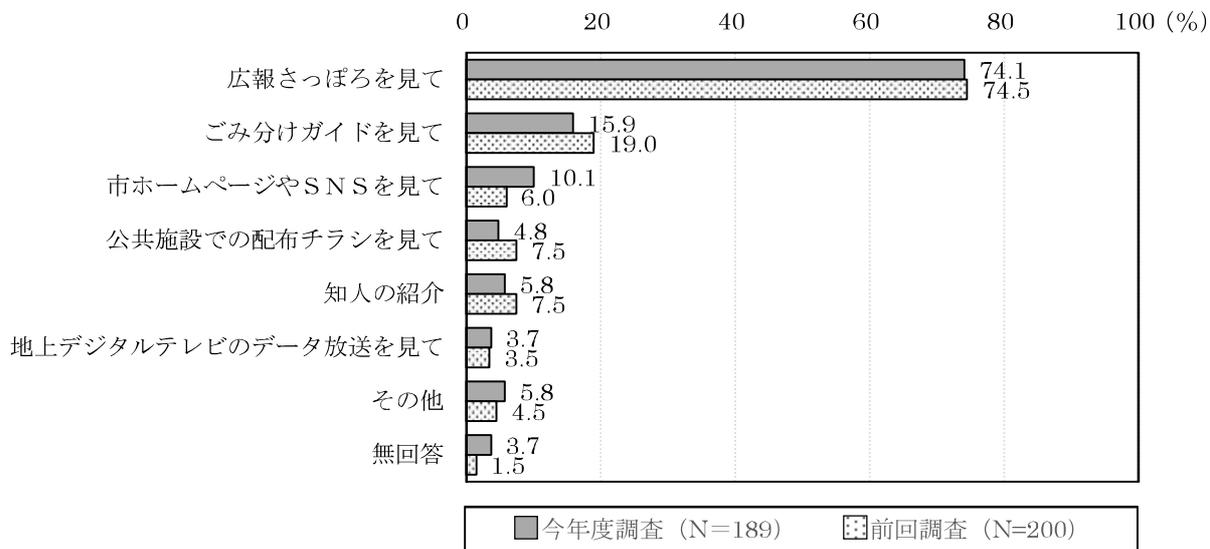


図4-18 生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知情報媒体

(7) 生ごみ堆肥の回収拠点の認知度

問 33 札幌市が市内 4 か所の地区リサイクルセンターと市内 6 か所の清掃事務所で、生ごみ堆肥の回収を行っているのをご存知ですか。(○は 1 つ)

生ごみ堆肥の回収拠点の認知度については、「知らない」が 88.7%と最も多く、以下、「知っているが利用したことはない」(8.5%)、「利用したことがある」(1.0%)となっている。

前回調査と比べてみると「知らない」は約 6 ポイント減少しており、「知っているが利用したことはない」は約 7 ポイント増加しているものの全体的な傾向に変化はみられない。

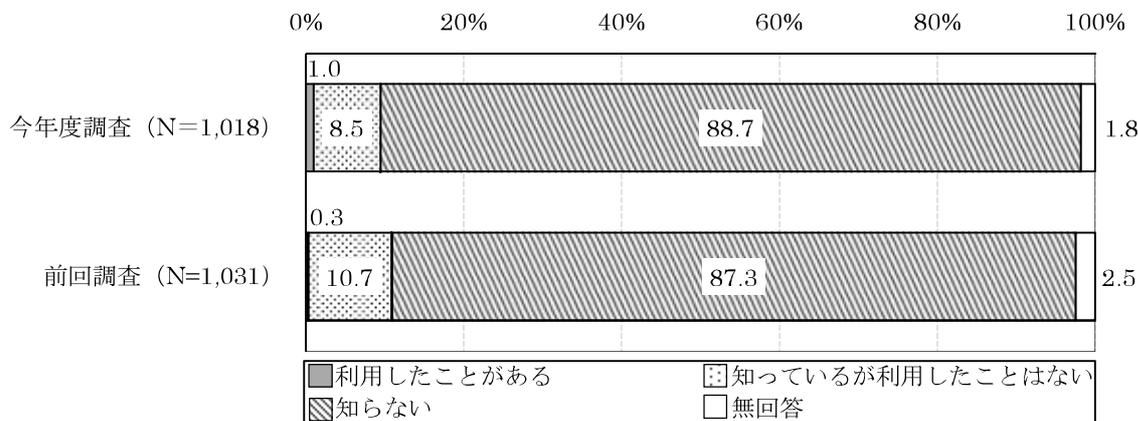


図 4-19 生ごみ堆肥の回収拠点の認知度

(8) 生ごみ堆肥の回収拠点の認知情報媒体

＜問 33 で「1 利用したことがある」、「2 知っているが利用したことはない」に○をつけた方に伺います＞

問 34 何で回収拠点を知りましたか。(○は該当するものすべて)

生ごみ堆肥の回収拠点を「利用したことがある」又は「知っているが利用したことはない」人の認知情報媒体としては、「広報さっぽろを見て」が 70.1%と最も多く、以下、「ごみ分けガイドを見て」(34.0%)、「市のホームページや SNS を見て」(11.3%) の順となっている。

なお、「その他」の内容としては、「町内会の見学会」、「区民センターに行った時に見た」などがあがっている。

前回調査と比べてみると、「広報さっぽろを見て」は前回調査より 11.7 ポイント増加しており、逆に「ごみ分けガイドを見て」は約 3.2 ポイント減少している。

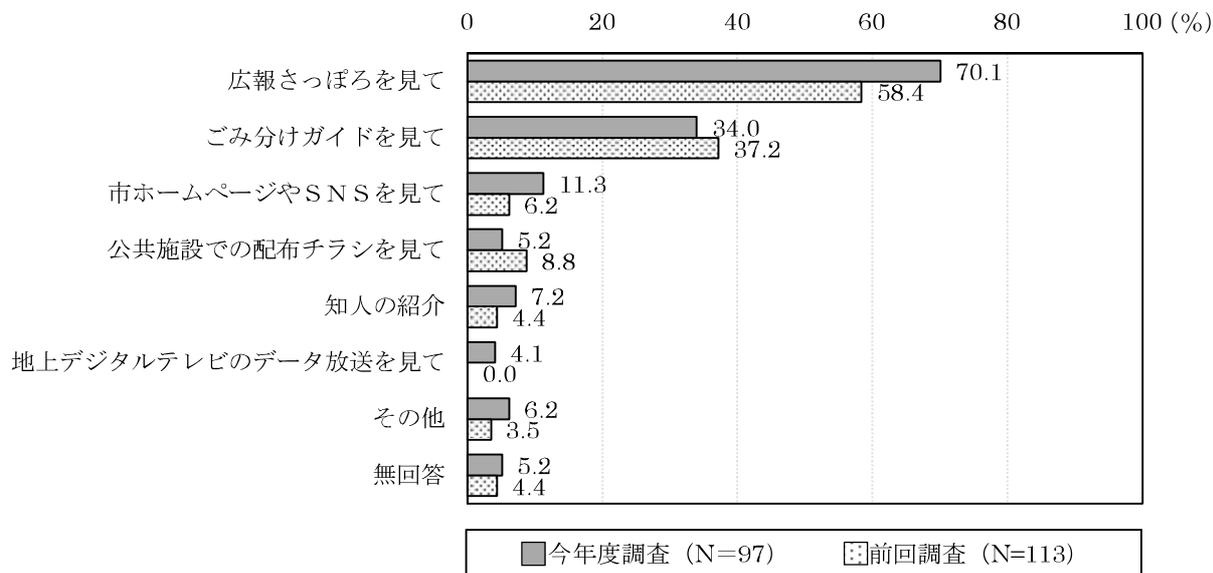


図 4-20 生ごみ堆肥の回収拠点の認知情報媒体

5 回答者属性

「あなた」ご自身のことについておたずねします。該当する番号に○をつけてください。

(1) 性別

問 35 性別を教えてください (○は1つ)

回答者の性別は、今年度調査では前回調査と同様に「女性」の割合が62.0%と多くなっているが、「男性」の割合は38.0%となっており、前回調査と比べても性別の構成に大きな差はみられない。

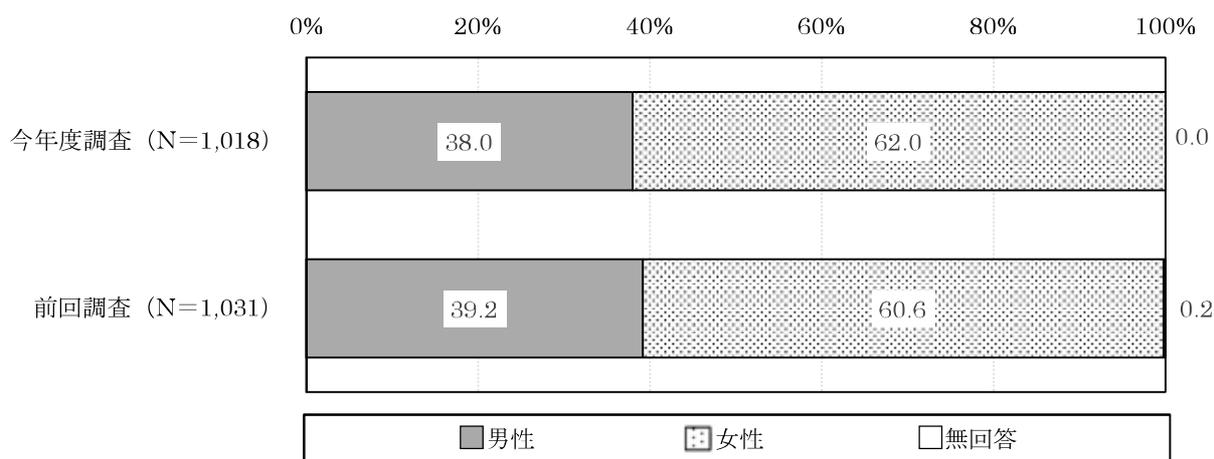


図5-1 性別

(2) 年齢

問 36 年齢を教えてください (○は1つ)

回答者の年齢は、「70歳以上」が26.3%と最も多く、次いで「60歳代」(20.5%)、「50歳代」(16.4%)、「40歳代」(16.3%)の順となっており、「70歳以上」は、前回調査(23.7%)よりも2.6ポイント増加している。

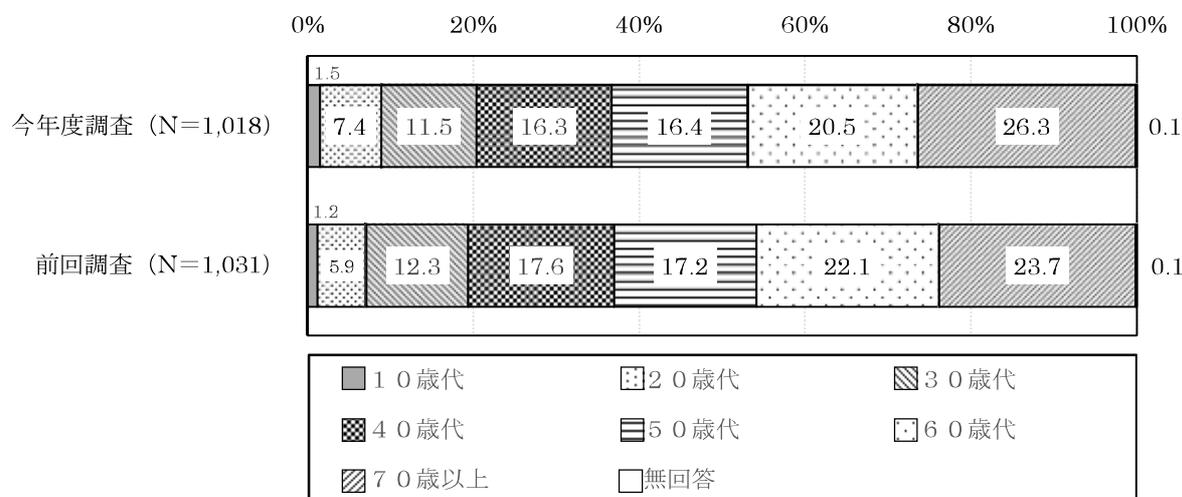


図5-2 年齢

(3) 家族構成

問 37 家族構成は次のどれに該当しますか (○は1つ)

回答者の家族構成は、「夫婦と子どものみ(核家族)」が32.2%と最も多く、以下、「夫婦のみ」(30.2%)、「一人暮らし」(17.9%)となっている。

前回調査で最も多かったのは、「夫婦のみ」であり、前回調査(32.2%)より2ポイント減少し、逆に「夫婦と子どものみ(核家族)」は前回調査(31.9%)よりも0.3ポイント増えている。

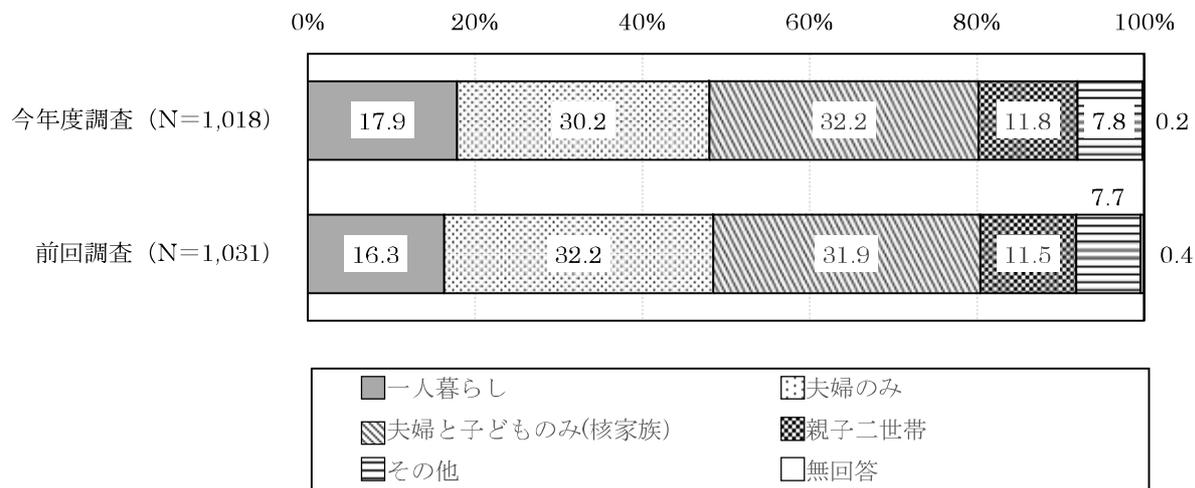


図 5-3 家族構成

(4) 居住形態

問 38 お住まいの住宅は次のどれに該当しますか (○は1つ)

回答者の居住形態は、「マンション・アパート」が49.9%と最も多く、次いで「一戸建て」(47.4%)となっている。

前回調査で最も多かったのは、「一戸建て」であり、前回調査(49.5%)より2.1ポイント減少し、逆に「マンション・アパート」は前回調査(47.4%)よりも2.5ポイント増加している。

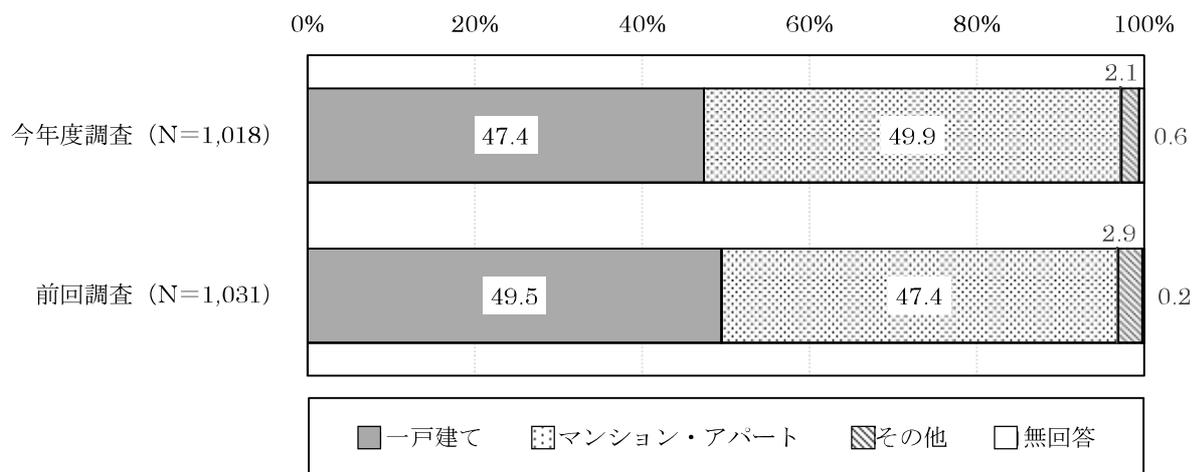


図 5-4 居住形態